

## 16 院内各部署の業務実績

院内各所属一覧（掲載ページ）

	ページ	所 属		ページ	所 属
診 療 部	48	内科統括	看 護 部	97	看護部長室
	50	代謝一般内科		101	外来
	51	呼吸器内科		102	在宅医療支援グループ
	52	消化器内科		103	手術室
	54	腎内科		104	中央材料室
	56	神経内科		105	I C U（集中治療室）
	58	精神神経科		106	3 B病棟
	59	循環器内科		107	4 A病棟
	61	心臓血管外科		108	4 B病棟
	62	小児科		109	5 A病棟
	64	外科		110	5 B病棟
	66	整形外科		111	6 A病棟
	67	形成外科		112	6 B病棟
	68	脳神経外科		113	7 A病棟
	70	皮膚科		114	7 B病棟
	71	泌尿器科	115	3 C病棟	
	72	産婦人科	事 務 部	116	病院経営課
	74	眼科		118	病院総務課
	76	耳鼻咽喉科		119	医事課
	77	放射線科		122	医療安全対策室
79	麻酔科		124	感染対策室	
80	病理科				
81	歯科口腔外科				
82	非常勤医師・臨床研修医				
診 療 技 術 部	83	臨床検査科			
	85	中央放射線科			
	87	臨床工学科			
	89	リハビリテーション科			
	91	栄養科			
93	医療技術科				
95	薬剤科				

## ■内科統括

---

### 1 診療体制

消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、神経内科などの内科系診療科がそれぞれ高い専門性を発揮すると同時に、相互に協力しながら内科全般の多様な疾患に対応する診療体制をとった。今年度からリウマチ・膠原病内科非常勤医師の診療を開始した。

### 2 平成 27 年度の診療実績

#### (1) 診療体制の充実

- ・消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、神経内科領域における専門的な診療を行った。  
\*糖尿病・内分泌内科と血液内科は代謝一般内科として診療にあたった。
- ・リウマチ・膠原病内科非常勤医師による診療を開始した（7月2日から隔週木曜日午前、10月1日から毎週木曜日午前）。
- ・このほか内科系診療科が分担して下記診療を行った。
- ・救急外来当番（平日9時～17時）：これまでと同様平日午前、午後各1名が救急外来の診療を担当した。
- ・当直・副直（休日と平日の17時～翌日9時）：これまでと同様当直医1名、副直医1名としたが、副直医は昨年度に引き続き平日は17時から21時まで、休日は9時から21時まで病院にとどまり診療にあたる体制とした。
- ・初診外来（平日午前）：平成25年4月から2名体制としている

#### (2) 内科の医局会とカンファレンス

- ・内科医師、特に後期研修医の増加により研修体制の充実を図った。
- ・内科医局会（毎週火曜日17時15分から18時30分）：薬剤の適正使用等に関する勉強会、連絡事項の伝達、懸案事項の打ち合わせ、症例検討を行った。
- ・早朝カンファレンス：水曜朝8時からの勉強会を行い、後期レジデント、初期臨床研修医を中心に診療知識向上に努めた。
- ・タカンファレンス：毎週月曜日午後に主に薬剤の適正使用等に関する勉強会を行った。

### 3 新・専門医制度への対応

当院は（社）日本専門機構に対し基幹施設として専門研修プログラム「富士市立中央病院内科専門研修プログラム」を申請した。同時に東京慈恵会医科大学附属病院「東京慈恵会医科大学附属病院内科専攻医研修プログラム」、静岡県立総合病院「静岡県立総合病院内科専門研修プログラム」、国際医療福祉大学熱海病院「国際

医療福祉大学熱海病院内科専門研修プログラム」に連携施設として参画するよう申請した。

#### 4 来年度の課題

- (1) 内科疾患全般の診療の要請に応えながら、より専門的で高度な医療を提供できる体制をつくる。
  - ①すべての専門領域において適切な医療が提供できるよう、さらに体制を整備する。
    - ・リウマチ、膠原病内科専門医による診療体制を拡充する。
    - ・内科系診療科の専門性を高める診療体制に移行する。
  - ②行政、医師会との連携により、地域に専門性の高い医療が提供できる環境・体制を整備する。
- (2) 研修体制の整備  
新・専門医制度に対応する研修体制を整備する。
- (3) 高齢化社会に向けて、高齢者医療の体制整備を行う。

(文責 笠井 健司)

## ■代謝一般内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
診療参事	藤井 常宏	部長	石澤 将（7月～）
副部長	山城 秀樹	医長	瀧 謙太郎
医員	蝶野 慈（～6月）	医員	石井 彰子（～4月）
専任医師	赤嶺 友代	専任医師	北川 楠奈子

### 2 平成 27 年度の診療実績

#### (1) 外来診察（専門）

藤井医師（悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、自己免疫性血小板減少性紫斑病、多発性骨髄腫、急性、慢性白血病等）、石澤医師（糖尿病、内分泌疾患、妊娠糖尿病等）、山城医師（糖尿病、一般疾患）、瀧医師（糖尿病、妊娠糖尿病、内分泌疾患）

#### (2) 地域連携室経由での紹介外来患者総数

藤井医師 249 名、石澤医師 96 名、瀧医師 182 名、山城医師 40 名

#### (3) 主な患者統計（新規患者数）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
糖尿病	576	542	505
悪性リンパ腫	56	67	48
特発性血小板減少性紫斑病	54	50	49
骨髄異形成症候群	29	35	35
多発性骨髄腫	19	11	20

### 3 来年度の課題

- ①外来受診患者への対応：外来患者が多く、開業医からの紹介患者が増加している。予約患者の診察時間がずれ込む状態を少しでも解消できるよう努める。平成 28 年 4 月からは東京慈恵会医科大学から派遣される血液専門医が 1 名増員されるため、血液の専門医師 2 名で診療にあたり、引き続き地域の医療に貢献していく。
- ②糖尿病診療：開業医からの紹介患者が増加しており、それに伴い糖尿病教育入院患者数も増加している。当院への紹介患者は、健康診断や糖尿病の症状自覚を契機として近隣の診療所を受診し重度の糖尿病を指摘されるケースが特に多く、初めて糖尿病の診療を開始する方々となる。初期の段階での状態把握、合併症の評価、患者自身の糖尿病への理解が重要であり、外来、入院での糖尿病教育をチーム医療として充実させ、引き続き地域医療に貢献していく。最近では Continuous Glucose Monitoring (CGM) による 24 時間血糖測定のみを目的として紹介をいただくケースも増えており、糖尿病治療だけではなく検査の方面でも地域の医療機関に協力していきたいと考えている。

（文責 藤井 常宏）

## ■呼吸器内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	木村 哲夫	医長	伊藤 三郎
専任医師	渡部 淳子		

### 2 平成 27 年度の診療実績

呼吸器内科は、一般的な肺炎から当地域に多い気管支喘息・慢性気管支炎・肺気腫といった慢性呼吸器疾患や、肺結核・肺非結核性抗酸菌症・気管支拡張症・肺がん等の診断及び治療を行っている。

気管支拡張症等による喀血に対しては、放射線科に依頼して気管支動脈塞栓術で止血処置を行っている。

また、慢性気管支炎・肺気腫・間質性肺炎等で、慢性呼吸不全状態にある患者に対しては、在宅酸素療法（HOT：Home Oxygen Therapy）を導入し、家庭での酸素投与を可能とし、生活の質の向上を図っている。

肺がんに関しては、気管支内視鏡で診断をつけ、治療は主に静岡県立静岡がんセンター（駿東郡長泉町）と連携し、総合的な治療を目指している。

当院は静岡県東部地区で唯一結核病棟（10 床）を有しており、近年再び増加しつつある結核に対しても治療を行っている。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
気管支鏡検査	93	64	44

### 3 来年度の課題

平成 28 年度も常勤医師 3 名による診療体制が継続可能となるため、引き続き安定した診療を行うことによって、地域医療に貢献する所存である。

（文責 木村 哲夫）

## ■消化器内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	鳥巢 勇一	副部長	中野 真範
医員	古橋 広人	専任医師	木下 千夏
専任医師	庄司 亮	専任医師	中田 達也

### 2 平成 27 年度の診療実績

平成 25 年度の 9 年ぶりの診療再開から 3 年目を迎えた。平成 27 年度も消化器内科は東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科および内視鏡科から派遣された 6 人の常勤医師および 3 人の非常勤医師で診療にあたった。

主に 7 B 病棟で入院を受け入れ入院診療にあたった。病棟内のエコー室で肝生検やラジオ波焼灼術等を行った。

消化器内科専門外来は月～金曜日の全ての外来診察日で行い、内視鏡診療に関しても定時枠を設置し全ての外来診察日に行った。

夜間・休日の消化管出血に対する緊急内視鏡的止血術は消化器内科医師が当直もしくは副直の際は消化器内科で担当した。その他の日は外科に担当していただいた。

肝生検やラジオ波焼灼術等については 7 B 病棟のエコー室で行った。

平成 27 年度の内視鏡治療件数は緊急止血術、各種 ESD、大腸ポリペクトミー、胆道内視鏡のいずれの処置も大幅に増加した。

#### C 型慢性肝炎に対するインターフェロンフリー抗ウイルス剤治療導入

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
DCV/ASV	27	64	24
SOF/RBV			43
LDV/RBV			50
OBV/PTV/r			1

#### 内視鏡治療

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
内視鏡的止血術	111	127	152
食道 ESD	-	1	7
胃 ESD	15	23	31
胃 EMR	4	8	4
十二指腸 EMR	-	4	1
大腸 ESD	2	10	12
大腸ポリペクトミー／EMR	84	187	217

胆膵検査・治療

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
ERCP	237	248	318
EBD	135	137	174
EST	56	83	112
EPBD	9	7	2
EPLBD	-	-	7

経皮的ドレナージ

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
PTCD	8	10	8
PTGBD	29	55	62
PTGBA	-	-	15
PTAD	-	12	11
肝のう胞ドレナージ	-	2	1

肝癌治療

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
RFA	26 症例 ／37 結節	36 症例 ／9session	35session
PEIT	7 症例 ／7 結節	1 症例 ／1 session	2 症例 ／2 結節
TACE or TAI	33 症例 ／5session	41 症例 ／3session	51session

3 来年度の課題

診療再開後、当科で診断および治療を受けた患者さんについては疾患別、治療別にデータベースを作ってきた。3年分のデータをもとに様々な解析を行うことにより臨床へフィードバックし、今後の前向き研究の土台としたい。

当科の先進的な取り組みを研究会、学会等で報告することにより、近隣医療機関からの紹介率が向上するよう努力をしていきたい。

(文責 鳥巢 勇一)

## ■腎内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	笠井 健司	医長	高橋 康人
医長	山本 和佳	専任医師	遣田 美貴
専任医師	藤本 俊成		

### 2 平成 27 年度の診療実績

平成 25 年 4 月に発足した富士市 CKD（慢性腎臓病）ネットワークにより腎臓病の円滑な医療連携が行われ、早期の腎臓病に治療介入できるようになってきている。

また、二人主治医制（患者さん一人にかかりつけ医と専門医が連携し、継続的に医療を提供するしくみ）が定着してきている。

依然として慢性透析導入患者数は多いが、高齢化などにより腹膜透析を選択される患者さんは減少傾向にある。

富士市透析防災ネットワークにより市内 7 透析施設相互の災害時協力体制が強化されると同時に、透析の医療連携も円滑に行われている。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
血液透析施行患者数	293	266	282
血液透析施行回数	2,597	2,603	2,564
腹膜透析患者数（年度末）	25	17	15

慢性透析導入患者数	81	67	84
血液透析／腹膜透析	73／8	64／3	83／1

急性血液浄化施行患者数	37	47	43
持続血液濾過透析	25	25	33
エンドトキシン吸着	7	8	1
単純血漿交換	3	7	3
二重濾過血漿交換	2	3	3
血液吸着	0	0	0
LCAP	0	1	3

\*急性血液浄化療法施行件数に関しては各科管理の症例を含む



	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
手術件数	76	98	90
血液透析アクセス	59	89	83
腹膜透析アクセス	17	9	7

腎生検	37	41	37
-----	----	----	----

腎臓病教室	12	12	12
-------	----	----	----

CKD 紹介（透析を除く）	274	230	238
---------------	-----	-----	-----

### 3 来年度の課題

内科医数の充足に伴い、腎臓内科としての専門的な医療を地域に提供できる基本的な体制はでき上がり、今後はより高水準できめ細かな医療が提供できるよう務めてゆく。

#### (1) きめ細かい腎臓病診療体制の整備

カンファレンスを充実させ、患者さん一人ひとりに最適な医療が提供できる体制を整備する。

#### (2) 腎臓病診療の専門性向上

東京慈恵会医科大学を中心に高次の医療機関との連携を強化し、最新の腎臓病診療が提供できる体制を整備する。

#### (3) 地域における腎臓病診療体制の整備

富士市 CKD ネットワークなどを通して腎臓病に対する地域の医療体制の整備、医療水準の向上に努める。

(文責 笠井 健司)

## ■神経内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	河野 優		

### 2 平成 27 年度の診療実績

平成 27 年度は部長と非常勤医師 1 名で外来診療を行った。

外来は、月から金曜日の週 5 回（火曜日は新患対応不可）、主に紹介状制により、物忘れ・しびれ・歩行障害など様々な神経症状を主訴とする患者の診断、治療および経過観察を行った。

入院を要する疾患も多く、内科各科からの協力を仰ぎ、内科主治医制、神経内科常勤医が担当医として治療にあたった。病院統計では内科入院患者として統計を取っている。

平成 27 年度の実績をもとに、平成 28 年度から日本神経学会・准教育施設認定の申請を行った。

#### (1) 疾患別入院患者数 (人)

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
血管障害	脳梗塞／脊髄梗塞	64	85	101
	脳出血	1	1	1
	一過性脳虚血発作	4	4	3
感染・炎症性疾患	脳炎／脳症	6	7	7
	プリオン病	2	2	1
	髄膜炎	8	4	3
変性疾患	認知症	9	1	2
	パーキンソン病関連疾患	18	14	22
	脊髄小脳変性症	3	2	0
	運動ニューロン病	3	1	9
脱髄性疾患	多発性硬化症／視神経脊髄炎	11	17	7
末梢神経障害	ギランバレー症候群	1	4	3
	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4	8	2
筋疾患	筋炎	5	4	3
	重症筋無力症	2	5	1
発作性疾患	てんかん／痙攣発作	75	39	21
その他		3	27	22
計		219	225	208

(2) 特殊検査実績 (件)

	脳波	針筋電図	神経伝導検査
外来	102	14	114
入院	90	3	16

(3) 臨床調査個人票作成

神経疾患の多くは難病として特定疾患治療研究事業の対象となっており、臨床調査個人票の作成総数は新規・更新を併せて172件であった。

3 来年度の課題

- ①常勤医の増員
- ②内科入院主治医との連携徹底
- ③神経診療の啓発、教育
- ④富士市難病連との交流

(文責 河野 優)

## ■精神神経科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	外岡 雄二		

### 2 平成 27 年度の診療実績

平成 27 年度 4 月より、外来診療を再開した。

#### (1) 外来診察：週 3 日（午前・午後）

対象疾患

統合失調症、気分障害（うつ病・躁うつ病他）、神経症（強迫性障害・全般性不安障害・社交不安障害他）、認知症（アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症他）、精神遅滞、てんかん、アルコール依存症、症状精神病 など

#### (2) 入院患者診察：毎日

対象疾患

当院で入院治療中の精神疾患患者の病状管理、認知症患者のせん妄症状のコントロール、自殺企図後の患者の精神症状のフォロー、アルコール依存症の離脱症状の治療、各種精神症状（不眠・不安・抑うつ・希死念慮）の治療 など

#### (3) 外来の診療統計総計：1,701 名

月別診療数

(人)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
52	90	108	132	146	140	151	154	163	177	181	207

### 3 来年度の課題

当院には精神科の入院病床がないため、入院治療が必要な精神疾患患者の治療については対応ができない。また、常勤医師が 1 名であるため、夜間・休日での診療・対応が困難である。市内の精神病院との連携をより密にして、対応困難な患者の入院治療への対処をスムーズに行えるようにしたい。

(文責 外岡 雄二)

## ■循環器内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
診療参事	三川 秀文	部長	阪本 宏志
副部長	阿部 裕一（～2月）	医長	富永 光敏（～6月）
医長	銭谷 大	医長	山田 崇之（3月～）
医長	木下 浩司（7月～）	専任医師	山内 妙子（5月～）
専任医師	大東 周碁		

### 2 平成 27 年度の診療実績

富士地区の循環器疾患の救急医療に対して、心臓血管外科と協力し 365 日体制で当直を配し、看護師、放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師とともにチーム医療で日夜取り組んでいる。平成 27 年度は急性冠症候群に対し緊急冠動脈造影検査を 170 例に施行し、内 132 例に対して経皮的冠動脈インターベンションを施行している。また、心肺停止や心原性ショック例に対しても経皮的な心肺補助法（PCPS）や大動脈バルーンポンピング法（IABP）などの機械的補助装置を用いて積極的に救命に努力している。

外来診療では多列型 X 線 CT 装置（MDCT：256 スライス）および核医学検査などで冠動脈疾患の診断が低侵襲で可能である。多枝病変を有する症例も多く、血管内超音波法（IVUS）、光干渉断層法（OCT）、冠血流予備量比（FFR）等の画像診断を用いて、病変の形態や組織性状の把握、虚血の有無等を評価し、治療に取り組んでいる。

末梢動脈疾患の治療も積極的に行い、総腸骨動脈、大腿動脈、鎖骨下動脈など 29 例にステントを用いた血行再建術を施行した。

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設に認定されており、循環器専門医 4 名、日本心血管インターベンション治療学会認定医 2 名、専門医・指導医 1 名を有し、知識および技術の向上に努めている。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
冠動脈造影	948	1,034	961
冠動脈インターベンション例	359	411	375
緊急症例（治療）	161（128）	164（129）	170（132）
末梢動脈疾患（腎動脈疾患）	32（4）	46（3）	29（3）
ペースメーカー植え込み術	58	58	52

### 3 来年度の課題

循環器内科では薬剤難治性心不全（基礎疾患は陳旧性心筋梗塞、弁膜症、心房細動、拡張型心筋症等）で入退院を繰り返す症例が増加してきた。不整脈の治療としてのアブレーション、植込み型徐細動器（ICD）と共に難治性心不全治療の心臓再同期療法（CRT）等を実施することで、循環器領域で、より積極的な治療が期待できるため、医師の増員、特に不整脈班の医師の派遣を働きかけていきたいと思っている。

（文責 阪本 宏志）

## ■心臓血管外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	織井 恒安		

### 2 平成 27 年度の診療実績

当院の心臓血管外科は平成 5 年 4 月の開設以来、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、弁膜症、不整脈手術、大動脈疾患（胸部から腹部）、末梢血管疾患（慢性閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症）に代表される成人疾患を一貫して扱っている。

平成 25 年 8 月から常勤医師の減少により 9 か月間手術を中止していたが、平成 26 年 5 月より心臓血管手術を再開している。現在は、指導教授を含めた東京慈恵会医科大学からの派遣医師 4 名と非常勤医師 1 名の計 6 名体制で日々の診療を行っている。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
先天性心疾患	0	1	0
虚血性心疾患	2	6	10
弁膜症	4	13	17
不整脈	0	4	2
胸部大動脈	1	3	2
腹部大動脈	2	9	8
末梢血管	3	19	19
心臓腫瘍、他	0	1	1
計（重複症例あり）	12	56	59

### 3 来年度の課題

以前当科では、急性大動脈解離や動脈瘤破裂等に対する緊急手術を数多く行っていたが、心臓血管外科常勤医師の減少などの理由により、平成 22 年以降は緊急症例の対応に課題を残していた。しかし最近では、心臓手術周術期管理に携わる全てのスタッフ（循環器内科医、麻酔科医、ICU・手術室・病棟看護師、薬剤師、臨床工学士、理学療法士及び心臓血管外科医）で合同カンファレンスを毎週（手術前週の木曜日）に行い、看護・リハビリから疾患・術式に至るまでのあらゆる情報をスタッフ全員で共有することで、大動脈解離等の緊急手術症例への対応も可能となっている。

今後は、更なる常勤医師の確保に努め、多くの緊急手術にも対応できる体制を整え、血管内治療（ステントグラフト）実施施設の取得を目指したい。

（文責 織井 恒安）

## ■小児科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
嘱託診療参事	千葉 博胤	副部長	秋山 直枝
医長	山田 浩介	医長	日馬 由貴
医長	玉利 明信（7月～）	医員	相良 長俊（～6月）
医員	木下 美沙子（8月～）	専任医師	角皆 季樹
専任医師	久保田 淳（～9月）	専任医師	武政 洋一（～2月）
専任医師	伊藤 研（10月～）	専任医師	鈴木 貴之（2月～）
専任医師	千葉 浩介（3月～）		

### 2 平成 27 年度の診療実績

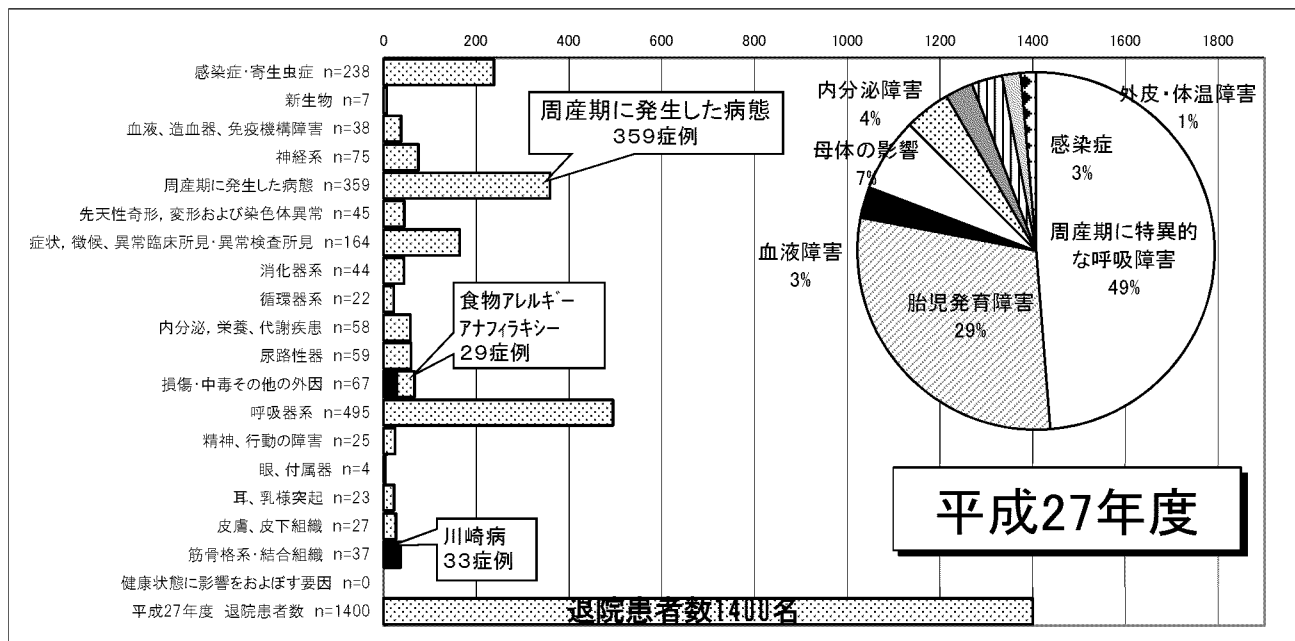
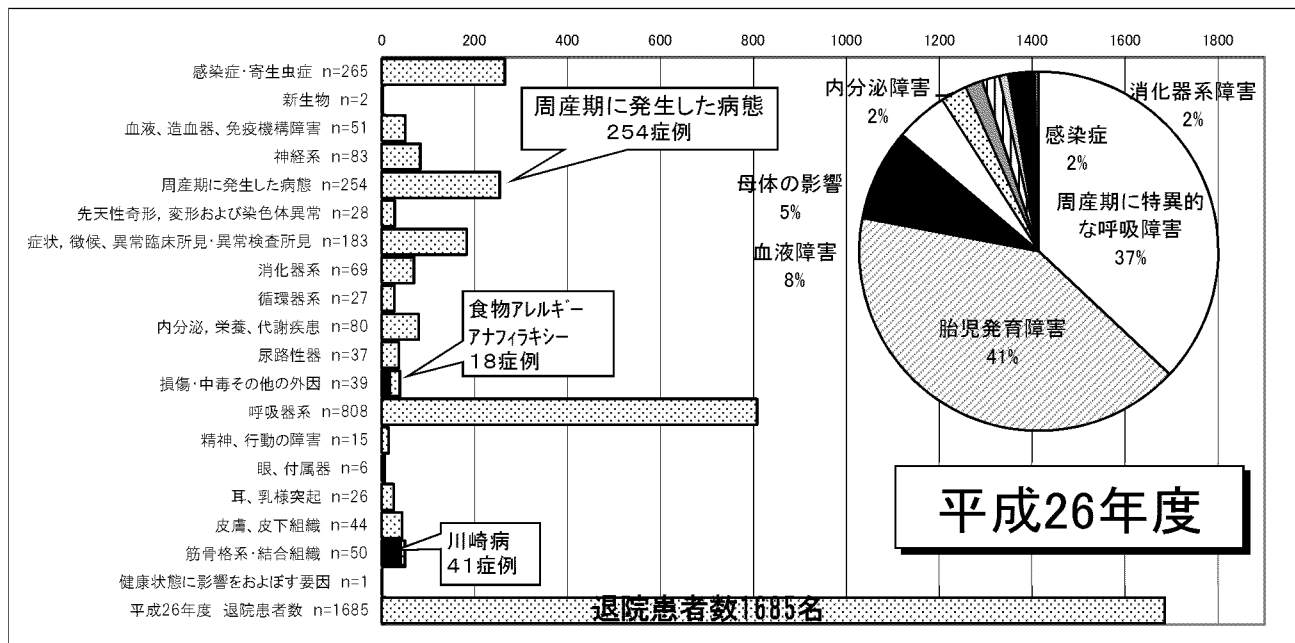
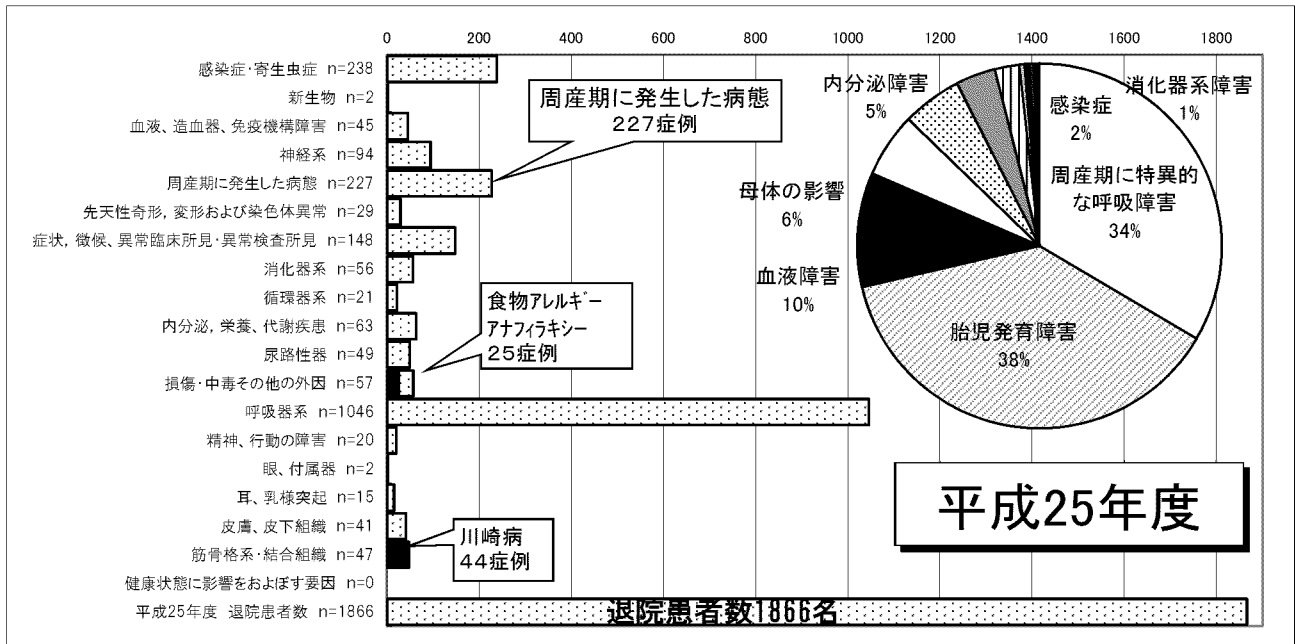
当科は一般小児科診療、小児救急、新生児医療について、富士市のみならず静岡県東部地域の基幹病院として、地域で開業されている先生方、一次救急医療機関である富士市救急医療センターと連携し、24 時間体制で行っている。また、平成 26 年 7 月に認可された NICU（新生児特定集中治療室）を持ち、未熟児や重症新生児の受け入れ先として、質の高い医療を提供するよう心掛けている。小児医療の更なるレベルアップを目指し、週 1 回の重症患者への対応シミュレーション、病棟での勉強会を頻回に行うとともに、高度医療施設である静岡県立こども病院とも連携し、少しでも東部地域の小児に対し良質な医療を提供していけるよう、日々研鑽を重ねている。また、学会発表や医療雑誌への論文投稿など、医療全体への貢献も積極的に行っている。

### 3 来年度の課題

一般診療はもとより、乳児健診や一時中断となっていた基礎疾患のない小児への予防接種を含むプライマリ・ケアを行い、地域医療機関と密に連携をとり、包括的で質の高い小児医療を提供することを目指していきたい。

（文責 秋山 直枝）





## ■外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
副院長	柏木 秀幸	部長	梶本 徹也
副部長	良元 和久	副部長	坪井 一人
副部長	道躰 隆行	医長	熊谷 祐
医長	北村 博顕（～6月）	医長	入村 雄也（～6月）
医長	武田 泰裕（～6月）	医長	阿部 恭平（7月～）
医長	谷田部 沙織（7月～）	医員	浮池 梓（7月～）
医員	蝶野 喜彦（～6月）	専任医師	恒松 雅（～6月）
専任医師	北川 隆洋（7月～）	専任医師	原田 篤（7月～）

### 2 平成 27 年度の診療実績

食道良性手術（アカラシアや逆流性食道炎など）4件、食道がん手術4件、スリーブ状胃切除術（減量手術）11件、胃・十二指腸良性手術7件、胃がん手術37件、小腸手術（腸閉塞や悪性疾患など）55件、虫垂切除術70件、大腸手術109件、肛門手術（痔疾患など）2件、人工肛門手術33件、そけいヘルニア/腹壁ヘルニア手術143件、胆嚢・胆管結石手術64件、肝臓/胆道がん手術24件、膵臓がん手術9件、乳がん手術37件、肺手術23件、下肢静脈瘤手術22件

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
上部消化管	44	73	78
下部消化管	252	186	266
肝胆膵	98	97	127
ヘルニア	118	118	143
呼吸器	16	23	34
乳腺	36	39	48
血管	34	22	22
手術総数 （鏡視下手術）	766 (173)	766 (252)	765 (245)

### 3 来年度の課題

平成 28 年 4 月から当院は地域がん診療病院に指定される。従来から外科診療の主体は悪性疾患であったが、今後はより積極的にがん診療に取り組んでいく必要が

ある。がんに対する治療は、診断や手術だけではなく、術後の予防的薬物・化学療法や、手術不能・再発症例に対する治療的薬物・化学療法も含まれる。また、病態に応じて、放射線療法を行うことも多い。

最近、緩和医療（緩和ケア）にも重点が置かれ、深く関わるのが各方面より求められている。緩和ケアには、病院全体で積極的に取り組んでおり、緩和ケアチームを編成し、緩和ケアラウンドを毎週行い、緩和ケア勉強会を毎月開催している。地域連携に首座を置く緩和ケア外来も行っており、外来緩和ケアに取り組んでいる。解決すべき障壁は多いが、いずれは緩和ケア講習会（2日間）の開催を目標としている。

外科手術に関して、現在、基本的に鏡視下手術可能な症例はほぼ全例、鏡視下手術を行っている。鏡視下手術は通常手術とは若干異なるスキルが要求されるが、外科スタッフの技術は着実に向上している。定期的なスタッフの人事異動があるため、今後も技術研鑽が必要である。手術室が1室増え、鏡視下手術機器も充実してきており、環境面も整いつつある。

特筆すべき治療として、平成26年度から肥満手術（道躰隆行副部長担当）を開始し、初年度は1例、今年度は11例の手術を合併症なく行った。東海地方で肥満手術を手掛けている施設は無く、今後も厳正な手術適応のもと、手術症例を増加することが期待される。

当院では、高齢、多くの合併症、緊急手術など高リスク症例が多く、周術期の合併症が無くなることはないが、これからも手術合併症を減らす努力を続けていきたい。

（文責 梶本 徹也）

## ■整形外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
嘱託診療参事	永井 素大	部長	加藤 努
医長	村上 宏史	専任医師	池田 淳（～12月）
専任医師	永峯 佑二（～12月）	専任医師	原田 直毅（～12月）
専任医師	嶺 崇文（1月～）	専任医師	勝見 俊介（1月～）
専任医師	小川 三千代（1月～）		

### 2 平成 27 年度の診療実績

当院は二次救急病院に指定されており、四肢の骨折や交通事故による多発外傷、高齢者の大腿骨頸部骨折などを多く診療、治療を行っている。近隣病院の整形外科縮小の影響もあり、当院での手術件数は増加傾向となり、それに対応すべく日々手術を行っている。

変形性股関節症や変形性膝関節症に対する人工関節手術も年間 40 件程度と積極的に行っており、さらなる難治療症例に対応できるように骨バンクの設置準備を行っている。

また、頸髄症、腰部脊柱管狭窄症などの脊椎疾患に対しては保存療法にて症状の軽快が期待できるよう、必要によっては入院のうえ、硬膜外ブロック注射などを行った。その他、膝半月板損傷などに対する関節鏡手術も行った。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
人工関節置換術	40	35	40
大腿骨近位部骨折 (骨接合術・人工骨頭置換術)	185	249	254
その他	273	324	309
合計手術件数	498	608	603

### 3 来年度の課題

富士・富士宮地区の手術患者の受け入れをスムーズに行えるよう体制を整えていきたい。また、今後の目標として人工関節手術件数を増やし富士市の基幹病院にふさわしい質の高い医療を提供できるよう努力する所存である。

(文責 加藤 努)

## ■形成外科

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
部長	平川 正彦	医員	山田 啓太（～12月）
医員	赤石 渉（1月～）		

### 2 平成27年度の診察実績

平成27年度の診療実績は下記のとおりである。（参考：平成25・26年度併記）

		入院手術			外来手術			合計		
		H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27
外傷	四肢	58	56	98	80	61	60	138	117	158
	顔面	9	10	10	42	35	24	51	45	34
	熱傷	2	1	7	0	0	1	2	1	8
腫瘍	良性	25	40	36	227	182	213	252	222	249
	悪性	14	14	11	8	18	16	22	32	27
	腫瘍切除後再建	0	6	0	0	2	0	0	8	0
瘢痕・ケロイド		9	7	3	14	14	11	23	21	14
皮膚潰瘍		8	6	4	2	2	0	10	8	4
炎症性疾患		24	19	26	50	76	54	74	95	80
先天異常		10	10	6	3	8	1	13	18	7
総合計		159	169	201	426	398	380	585	567	581

### 3 来年度の課題

- (1) 大学との関係を密にし、医師の増員を図る。
- (2) 関連科との連携を深め、救急患者さんへの対応を充実させる。
- (3) 市外からの救急依頼について対応策を検討する。

（文責 平川 正彦）

## ■脳神経外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	諸岡 暁	副部長	野田 靖人
医長	坂本 広喜	専任医師	角藤 律（～10月）
専任医師	園田 章太（10月～）		

### 2 平成 27 年度の診療実績

脳血管内治療専門医（坂本広喜医師）が常勤2年目となった。脊椎外科専門医（秋山雅彦非常勤医師）の月1回外来診療を継続。勤務1年間のレジデント（専任医師）が10月に定期交替した。常勤医師は夜間または休日の当番勤務を月7回行った。

入院疾患の割合および手術数は表の通り。

#### ①入院疾患別頻度（%）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
くも膜下出血	4	5	7
脳出血	12	16	13
脳梗塞	22	15	15
頭部外傷	30	42	39
腫瘍	2	1	4
脊椎	13	1	0
血管内治療関連	-	-	6

#### ②手術件数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
頭部手術	86	104	123
1) 開頭手術	25	31	44
2) 神経内視鏡手術	3	3	1
3) 脳血管内手術	6	17	26
脊椎手術	49	1	1

入院疾患における外傷と出血性脳血管障害の割合はそれぞれほぼ横ばいで、脳梗塞は昨年度減少後の横ばい（内科での入院が増えている）傾向であり、これら合計で74%を占める。

脳卒中地域連携パスにより、良い時期にリハビリテーション転院できており、在院日数は適正で長期入院はない。

手術は4年間増加傾向。紹介による腫瘍症例が特に増えている。

脳血管内治療は常時対応可能であり、紹介症例が増え治療数が順調に伸びている。

### 3 来年度の課題

基本の重症頭部外傷と出血性脳血管障害は漏れなく受け入れ、市内基幹病院としての要望に応える。

当科態勢を広く案内して入院・手術に繋がることの多い紹介例を増やし、脳血管内治療や腫瘍の症例数を維持しさらに増やす。

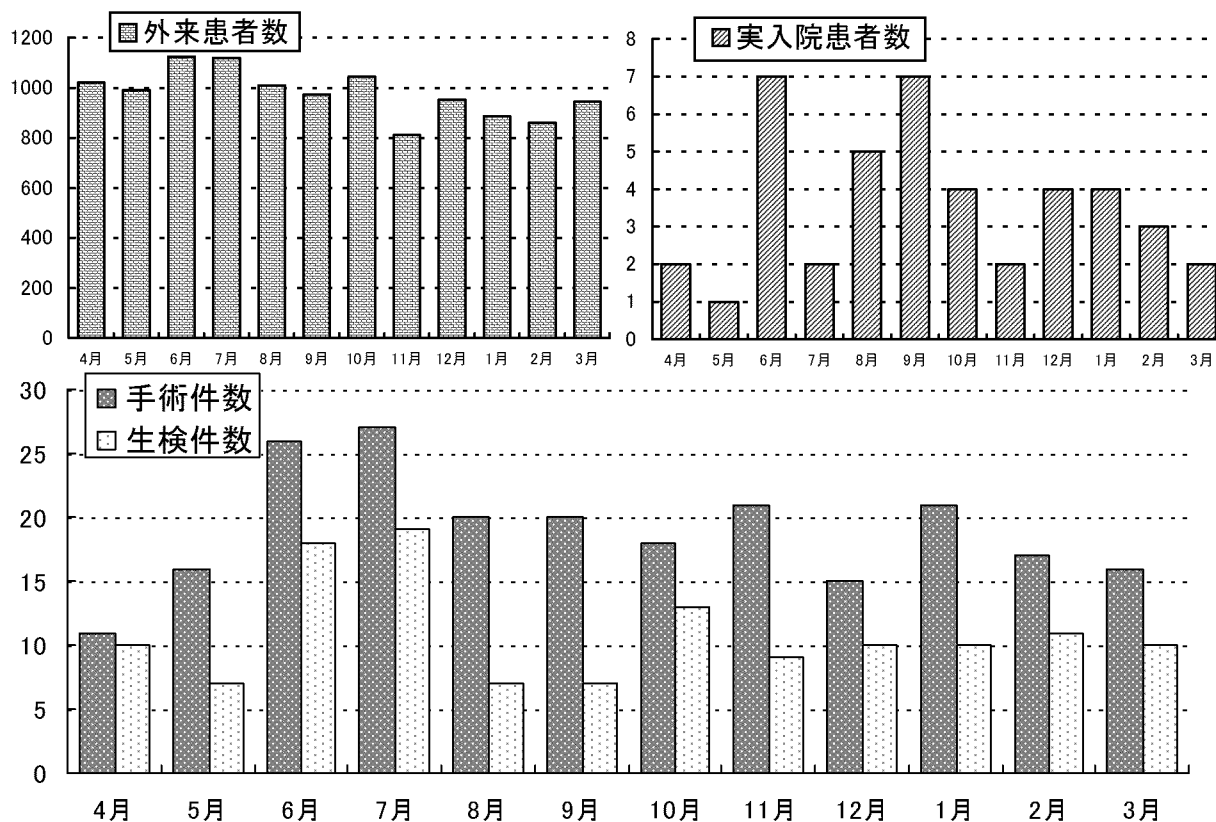
(文責 諸岡 暁)

## ■皮膚科

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
部長	津嶋 友央	医長	栗原 和生

### 2 平成 27 年度の診療実績



	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
外来患者数	12,354	11,519	11,737
実入院患者数	41	43	43
手術件数	239	167	228
皮膚生検件数	128	112	131

### 3 来年度の課題

外来及び入院患者数に関して、他科との連携を深め、患者数の増加を目指し努力していきたい。入院適応となる症例の場合は、患者の症状にあわせて入院治療を進め、質の高い医療を提供する。

(文責 津嶋 友央)



## ■泌尿器科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
院長	小野寺 昭一	部長	後藤 博一
副部長	鈴木 英訓	医長	西川 英臣（～6月）
専任医師	森 啓一郎（7月～）		

### 2 平成 27 年度の診療実績

前年度に引き続き、常勤医 4 人と非常勤 3 人で診療を行った。泌尿器科領域全般の疾患すべてに対応し、泌尿器系の悪性腫瘍に関しては初期治療から緩和医療、終末期治療まで一貫した診療を行っている。さらに、入院診療・手術施行可能な地域中核病院の泌尿器科として、24 時間体制で近隣医療機関からの依頼には必ずファーストタッチを行い、二次診療だけでなく、場合によっては一次診療や三次診療まで行っている。今年度は、東京慈恵会医科大学から腹腔鏡手術の認定医を招聘して腹腔鏡下腎摘出術を開始し、5 症例に対して問題なく施行した。前立腺癌の根治照射施行症例も順調に増えており、良好な治療効果が得られている。泌尿器科女性専用外来も順調に診療が行われており、やはり大学から術者を招聘して、新しいメッシュを用いた尿失禁手術に取り組んでいる。

#### 主な手術の年次推移

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
経尿道的前立腺切除術	32	51	36
経尿道的膀胱腫瘍切除術	126	116	130
腎悪性腫瘍手術	16	15	10
膀胱結石・異物摘出術	20	18	23
経皮的腎婁造設術	19	23	8
体外衝撃波結石破碎術	538	587	536
年間手術件数（ESWL 除く）	233	289	275

### 3 来年度の課題

平成 28 年 7 月からは、大学からの派遣が 1 名増員となり、院長含め常勤医 5 名体制で診療を行う予定である。外来担当も 2 名体制で行うことが可能になり、患者待ち時間などの改善を図る予定である。腹腔鏡下手術も今後症例を増やし、前立腺全摘術にも適応を拡げていきたいと考えている。また、内視鏡などの医療機器の充実を図り、経尿道的結石手術などの症例も増やしたいと考えている。

（文責 後藤 博一）

## ■産婦人科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	鈴木 康之	医長	矢田 大輔
医員	岸本 彩子	医員	伊藤 敏谷
専任医師	井出 瑠衣（～4月）	専任医師	東堂 祐介
専任医師	榛葉 頼子	専任医師	松木 翔太郎（6月～）

### 2 平成 27 年度の診療実績

地域周産期母子医療センターとして富士医療圏域における周産期医療を担っている。平成 27 年 9 月 10 日には、〈産科医療功労者厚生労働大臣賞〉が当院に授与された。県内施設では浜松医科大学病院、聖隷浜松病院、順天堂大学静岡病院が以前に授与されている。

小児科および産科スタッフ等による周産期カンファレンスは毎週木曜日に開催され、ハイリスク妊娠、分娩（切迫早産、多胎妊娠、子宮内胎児発育不全、妊娠高血圧症候群、胎盤位置異常などの他、各科医師の協力下において糖尿病、腎臓病、血液疾患、神経疾患、呼吸器疾患等の合併妊娠も含む。）の対応を検討している。

富士医療圏の総分娩数は減少傾向であるが、当院は医療圏の母体搬送のほとんどを受け入れている。また、分娩後の母体大量出血などの危機的疾患にも各科の協力のもと対応している。

婦人科良性疾患（子宮筋腫、卵巣嚢腫など）の手術は緊急手術も含め、ほぼ半数が腹腔鏡下手術となっている。なお、悪性腫瘍手術は開腹で行っている。

生殖医療は体外受精－胚移植、顕微授精を行っており、増加傾向である。

また若年がん患者さん（乳がん、直腸がん等）の卵子凍結保存などに対応する静岡県内ネットワーク（平成 27 年 1 月設立）にも参加している。

#### 主な診療実績

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
分娩件数	809	700	698
母体搬送受入数	76	95	89
帝王切開件数	208	188	201
ハイリスク分娩	133	133	139
内視鏡下（腹腔鏡下および子宮鏡下）手術数	88	174	175
良性疾患（開腹及び腔式）手術数	284	189	151
悪性腫瘍手術数	24	30	22
総手術数	618	613	549

### 生殖補助医療

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
人工授精件数	96	108	106
体外受精件数	56	76	81
融解胚移植件数	52	68	107

### 3 来年度の課題

周産期医療に関してはハイリスク患者さんが多いためか NICU のベッドが相変わらず満床に近く、小児科医師に大変お世話になっている。妊婦の高齢化もあるが、早産を減らすための啓発も含め努力したい。

婦人科手術は内視鏡手術が増えており、スキルアップも目指したい。

生殖医療に関しては、患者さんの高齢化もあり難しいが妊娠率向上が課題である。

(文責 鈴木 康之)

## ■眼科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	藤谷 暢子	医長	杉山 敦（～12月）
医長	渡辺 勝（1月～）		

### 2 平成 27 年度の診療実績

平成 28 年 1 月 1 日付けで杉山敦医師から渡辺勝医師へと医師の交替があった。

外来診療は、眼科医 2 名、視能訓練士 2 名、看護師 2 名、医療補助 1 名、受付 1 名で行ってきた。必要以上に点眼処方を希望される患者さんには、看護師が点眼指導も行う等、きめ細かい対応を行っている。

基本的に、月・火・木・金曜日は 2 診、水曜日は 1 診であった。

午前中は、紹介予約枠を使った紹介初診を最優先とし、9時から予約診察を行っている。予約外や初診も 11 時までの受付で診察可能である。午後は完全予約検査であり、視野検査、眼位検査、レーザー、蛍光眼底撮影、抗 VEGF 薬硝子体注射、涙点プラグ・鼻涙管シリコンチューブ挿入・霰粒腫等の外来小手術、小児の弱視・斜視外来を行っている。

特に抗 VEGF 薬硝子体注射は、適応の拡大に伴い、件数が増加している。

平成 24 年から開始したロービジョン外来も軌道に乗ってきた。月 1 回予約制で、補助具を合わせ、日常生活のアドバイスを行っている。iPad によるロービジョンケアも取り入れており、他院からロービジョン外来宛にご紹介いただくことも増えてきた。

また、平成 26 年から開始したオルソケラトロジーも行っている。まだ処方数は少ないが、今後も継続していく。

今年度は、山梨大学眼科から飯島裕幸教授に診察していただく教授外来も始めた。今後も、数か月に半日、難症例を診ていただくことで、患者さんのためだけでなく、我々の診療技術の向上にも繋がると考えている。

手術室での手術は、月曜日の午後と火曜日の午後に行っている。白内障を中心に、緑内障、翼状片、眼瞼内反症など行っている。

白内障手術は、片眼 2 泊 3 日の入院で行ってきた。認知症や精神発達遅滞等のために全身麻酔で行う症例も増えている。全身麻酔の症例では、入院は 4 日となる。硝子体疾患については、月 1 回、山梨大学から専門医を招き、少数ながら万全の体制で手術を行っている。

手術室での眼科手術

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
白内障手術	233	205	198
緑内障手術	7	10	9
硝子体手術	18	20	24
網膜剥離手術	0	1	1
強角膜縫合術	0	1	0
翼状片手術	0	3	4
斜視手術	0	0	0
眼瞼内反症手術	4	3	4
その他	5	2	5
計	267	245	245

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
抗 VEGF 硝子体注射	82	108	191

3 来年度の課題

手術については、近隣に手術を行う眼科クリニックが多く、当科で行うものは全身状態も目も難しい症例の比率が高い。そのため、限られた時間枠で手術件数を大幅に増やすことは難しいが、昨年度より増加を目指す。まず、患者さんの選択肢を増やすために、平成 28 年度より白内障日帰り手術の導入を予定している。更に、白内障・硝子体手術装置の更新が期待され、それにより硝子体手術の時間短縮・症例数増加を見込んでいる。

当科の位置付けとしては、他院・他科との連携である。開業医の先生との連携をもっと密にするよう工夫したい。他科とも積極的にコミュニケーションを取り、多方向からの加療を目指す。

また、ロービジョン外来は、まだ周知は不十分と思われる。今後もっと周知を徹底し、他院に通院している患者さんの受け入れももっと進めていきたい。

オルソケラトロジーも軌道に乗せたい。また、多焦点眼内レンズや ICL 近視矯正手術といった過去に行ってこなかった治療にも、今後取り組む予定である。

平成 28 年度には、視能訓練士の 1 名増員が決まっており、検査の充実も期待できる。

(文責 藤谷 暢子)

## ■耳鼻咽喉科

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
部長	重田 泰史	医員	倉島 彩子
医員	宇野 匡祐 (～9月)	専任医師	黒田 健斗 (10月～)

### 2 平成 27 年度の診療実績

耳鼻咽喉科は3人体制で診療を行い、耳、鼻、咽喉頭、頸部の診断・治療を幅広く行っている。午前中は一般外来を行い、特別な治療や処置が必要となる患者さんは、午後に来ていただき治療、処置を行っている。

手術日は火・水・金曜日の週3日間で、高度な技術を必要とする手術は東京慈恵会医科大学の医師を招聘し行っている。

進行癌症例は、静岡県立静岡がんセンターと連携している。また当科の特色として、嚥下障害患者に対する診断・治療を積極的に行い、院内の絶食患者のより安全な経口摂取の再開を目指している。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
嚥下機能評価患者	288	196	148
内視鏡下鼻内副鼻腔手術	88	114	145
鼻中隔矯正術	42	77	72
口蓋扁桃摘出術	76	140	54

### 3 来年度の課題

平成 27 年度はスタッフの異動などあり、外来数、入院数が大幅に減少したが、来年度は手術数含め増やしていけるよう努力したいと考えている。

(文責 重田 泰史)

## ■放射線科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
医長	松井 洋		

### 2 平成 27 年度の診療実績

昨年度と同様に CT、MRI、RI に関しては可及的迅速な全件読影を行っており、画像診断管理加算 2（CT/MR/RI の 8 割以上の読影結果が常勤専門医により遅くとも撮影日の翌診療日までに主治医に報告されていることを条件に 1 件あたり 180 点算定ができる）の算定施設基準を維持することができた。

IVR に関しては依然として TAE を中心に豊富な症例を行うことができ、血管腫の硬化療法などが増えてきている。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
IVR	138	178	136
血管系 IVR	77	103	73
肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法/肝動脈動注化学療法 (TACE/TAI)	31	42	20
緊急経カテーテル的動脈塞栓術 (TAE)	15	22	17
気管支動脈塞栓術 (BAE)	1	2	1
透析シャント血管形成術 (PTA)	7	0	1
その他経カテーテル的動脈塞栓術 (TAE)	7	4	6
内臓動脈瘤コイル塞栓術	1	1	0
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 (B-RTO)	1	3	5
帝王切開術前両側内総腸骨動脈バルーン閉塞術	0	0	0
経皮経肝的門脈塞栓術 (PTPE)	0	1	0
血管内異物回収	0	0	1
PIC カテーテル留置	12	18	21
急性膵炎持続動注療法	0	3	0
その他 (リザーバー挿入)	2	0	0
静脈サンプリング (AVS, ASVS, 下錐体静脈洞サンプリング)	-	7	1
非血管系 IVR	56	65	58
経皮的胆道ドレナージ (PTBD)	10	9	16
画像誘導下膿瘍ドレナージ (PTAD)	27	42	30
画像誘導下生検	12	11	6
肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術 (RFA)	3	1	0

胆管ステント留置	3	0	1
肝細胞癌に対する経皮的エタノール注入療法 (PEIT)	1	0	0
硬化療法	-	1	5
血管造影のみ	5	10	5

#### 読影件数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
総読影件数	31,800	32,509	38,372
CT	18,214	19,187	23,934
MRI	5,552	5,378	6,478
US	6,206	6,837	6,872
アイソトープ	982	805	870
単純 X 線撮影	846	302	218

#### 病診連携件数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
高度医療機器利用依頼	1,680	1,598	1,709

#### 放射線治療人数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
患者数	83	275	144
頭頸部	2	21	2
胸部	38	104	39
腹部	3	28	4
骨盤	23	75	28
骨軟部	17	47	66

### 3 来年度の課題

- ・他科との連携をさらに密にしていく。
- ・IVR 業務の拡充
- ・読影管理加算 2 の算定施設基準を維持する。
- ・病診連携（高度医療機器利用依頼）にさらに力を入れ、逆紹介率向上に貢献する。

(文責 松井 洋)



## ■麻酔科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
副部長	銅谷 実	医長	飯田 瑠梨
医長	影山 佳世		

### 2 平成 27 年度の診療実績

過去 3 年間の麻酔科管理手術症例の推移は下表のとおりである。

平成 27 年 1 月と 3 月に常勤医師 2 名が増員となり、年度当初から、日中の麻酔科医の常勤体制が大幅に充実してきており、手術室外業務も徐々にではあるが対応できるようになりつつある。

平成 28 年 1 月より稼働手術室が 1 室増えたが、手術室の物理的、あるいは人的資源の制約があるため、より一層の効率的な手術室運用が求められる。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
麻酔科管理総数	1,455	1,573	1,582
全身麻酔 (他の麻酔法の併用を含む)	1,446	1,517	1,495
硬膜外麻酔・脊椎くも膜下麻酔 (どちらか一方・両者併用を含む)	7	7	57
その他	2	49	30

### 3 来年度の課題

円滑な手術進行と稼働率の上昇、手術室における安全管理が来年度の課題となる。

来年度より新設される手術管理科のもと、麻酔科も手術室運営に積極的に参加し、円滑な手術進行、稼働率の上昇に協力していきたい。

麻酔科医の配置については、症例数に見合った人員の確保を来年度も継続して目指す。ただし、手術件数の増加のためには麻酔科医の人員を増加させるだけではあまり意味がなく、特に日中の定時手術は予定時間内で終わらせるなど、他科の協力も必要であると考ええる。

また、当院の手術室は各科管理手術が多いという特徴がある。現状では看護師が術中の患者状態を看視しているが、中等度～重症症例などでは麻酔科が積極的に介入し、円滑な手術進行のみならず、患者の安全にも繋がるようにしていきたいと考える。

(文責 井上 恒佳)

## ■病理科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	遠藤 泰彦		

### 2 平成 27 年度の診療実績

病理組織診断	4,679 件
（内、術中迅速診断）	114 件
細胞診断	4,047 件
病理解剖	11 件
CPC 開催	年 4 回
各診療科とのカンファレンス	多数

常勤医師 1 名、非常勤医師 1 名、臨床検査技師・細胞検査士 4 名、医師事務作業補助者 1 名を含めた構成で業務を行っており、場合によっては東京慈恵会医科大学との連携のもと診断を行うこともある。下表で示したとおり、診断件数は年々明らかに増加してきており、また免疫染色の件数に関しても明らかな増加が認められる。

### ※ 過去 3 年間の診断件数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
組織診断	4,497	4,531	4,679
（内、術中迅速診断）	(99)	(100)	(114)
細胞診断	4,196	3,952	4,047
病理解剖	13	8	11

### 3 来年度の課題

当科は市内唯一の“病理科”である。当科での診断により病名が決定し、患者さんの今後の治療方針が決定する。よりの確な診断がとても重要な責務を担っていると自覚している。

病理科の存在がどれだけ重要であるかしっかりと受け止め、患者さんにより質の高い医療を受けていただけるよう、今後も診断していきたいと思っている。

（文責 遠藤 泰彦）

## ■ 歯科口腔外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	勝山 直彦	医長	井出 正俊
専任医師	本間 彰人	臨床研修医	神原 優美 (5月~12月)

### 2 平成 27 年度の診療実績

地域基幹病院の口腔外科として主に難抜歯、外傷、炎症、腫瘍、嚢胞、粘膜疾患、奇形・変形の手術を行っている。

当科は、一般開業医では処置困難な症例を扱い、通常の歯科治療は行っていない。  
平成 27 年度外来局所麻酔手術は、1,873 例であった。

全身麻酔または静脈麻酔の症例は、難抜歯が最も多く、ついで嚢胞、外傷の順であった。

#### 手術症例

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
難抜歯	1,536	1,621	1,792
嚢胞	118	82	86
外傷	12	13	22
その他	290	222	235
計	1,956	1,938	2,135

### 3 来年度の課題

今後、地域基幹病院の口腔外科として地域医療機関と密な連携を図り、手術症例を増やしたいと考えている。平成 27 年度と同様に、顎変形症については、県東部の歯科矯正医との連携をとり症例を増やす予定である。

また、周術期口腔ケアを開始したので、今後各科と連携し充実させる。

地域基幹病院としての使命を果たすべく、富士市民のために質の高い医療を提供できるよう研鑽・努力していきたいと思う。

(文責 勝山 直彦)

## ■非常勤医師

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

所 属	氏 名	所 属	氏 名
代謝一般内科	谷口 幹太	代謝一般内科	比企 能人
消化器内科	梶原 幹生	内科（内視鏡）	内山 勇二郎
内科（内視鏡）	加藤 正之	神経内科	森田 昌代
精神神経科	品川 俊一郎	精神神経科	三宮 正久
精神神経科	古川 愛造	心臓血管外科	橋本 和弘
心臓血管外科	高木 智充	心臓血管外科	成瀬 瞳
小児科	玉利 明信	外科（内視鏡）	増田 勝紀
外科（内視鏡）	宮川 朗	外科（呼吸器）	森川 利昭
整形外科	磯谷 綾子	リハビリテーション科	殷 祥洙
脳神経外科	秋山 雅彦	泌尿器科	阿部 和弘
泌尿器科	平本 有希子	泌尿器科	柏野 想太郎
産婦人科	金山 尚裕	産婦人科	廣中 由紀
放射線科	竹永 晋介	放射線科	大木 一剛
放射線科	東條 慎次郎	放射線科	渡嘉敷 唯司
放射線科	成田 賢一	放射線科	清水 敦夫
放射線科	荻原 翔	放射線科	道本 顕吉
放射線科	完山 依里子	放射線科	北井 里美
放射線科	五味 拓	放射線科	小宮山 貴史
放射線科	野中 穂高	麻酔科	井上 恒佳
麻酔科	村上 裕一	麻酔科	大谷 法理
麻酔科	渡邊 薫	麻酔科	渡邊 朋子
麻酔科	梁木 理史	麻酔科	廣井 一正
麻酔科	上園 晶一	麻酔科	津久井 亮太
麻酔科	永谷 雅子	麻酔科	濱口 孝幸
病理科	千葉 諭	歯科口腔外科	阿部 恵一
歯科口腔外科	森永 桂輔	歯科口腔外科	神谷 圭祐
歯科口腔外科	砂田 勝久	歯科口腔外科	小林 清佳
歯科口腔外科	児玉 実穂	歯科口腔外科	岡山 浩美

## ■臨床研修医

氏 名	採 用 期 間
一場 剛	平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
白坂 和美	平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
坊 英明	平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

## ■臨床検査科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
技師長	石川 隆之	副技師長	鈴木 雅人
参事補兼主任	渡邊 修	参事補兼主任	渡邊 由喜子
参事補兼主任	鈴木 英昭	主任	高橋 昌子
主任	大芝 孝次	主任	小野 美代子
主任	岩崎 佐知子	主査	遠藤 聡
主査	長峰 誠一郎	主査	野田 文子
主査	佐野 僚子	主査	石井 孝良
主査	渡邊 広明	上席技師	山本 純子
上席技師	大野 真一	上席技師	阿部 愛
技師	渡邊 真理子	技師	手老 真弓
技師	清 亜矢	技師	内野 有子
技師	渡邊 恭子	技師	竹下 翔太
技師	尾形 裕以	技師	池田 琢
技師 (R)	加藤 才子	技師 (R)	加藤 加代子
技師 (R)	左原 泰子	技師 (R)	後藤 隆広
技師 (R)	宇佐美 由紀子	技師 (R)	長峯 幸子
技師 (R)	中山 智美	技師 (R)	関 三千代
技師 (R)	遠藤 清恵	技師 (R)	高場 夏代
医療補助員	芹澤 好子	BML事務員	原 久美

※ (R) は臨時職員

### 2 平成 27 年度の業務実績

#### 血液検体件数の推移

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
検体総件数	2, 147, 875	2, 361, 193	2, 381, 176
人工受精	106	101	102
体外受精	78	78	92
胚移植融解	105	85	107
妊婦健診 (エコー)	2, 493	2, 079	2, 269
輸血総数 (単位+本数)	16, 694	19, 391	15, 623
剖検数	8	13	12
採血患者数	61, 741	63, 291	65, 593

- ・血中薬物濃度検査をケンタウルス XPT に更新し測定を開始したため、検査結果報告時間が短縮した。
- ・採血業務アシストソリューションが増設され6台体制での運用を開始したため、採血待ち時間が削減した。
- ・検査総合受付システムの管理 PC が更新されバージョンアップした。
- ・血圧脈波測定装置を VS—1500AN に更新した。
- ・悪性リンパ腫組織検査を READsystem に外部委託検査として運用を開始した。
- ・T—SPOT・TB の追加検査としてクオンティフェロン委託検査を再開した。
- ・次期臨床検査システムは現行の CNA システムに継続依頼することとした。
- ・病理検査報告未読一覧は未確認防止のため、診療部長宛てにも発送を開始した。

<各種認定等資格取得者状況>

名 称	人数	名 称	人数	名 称	人数
細胞検査士	5名	認定輸血検査技師	2名	認定血液検査技師	3名
認定一般検査技師	1名	認定超音波検査士	4名	生殖補助医療胚培養士	3名
体外受精コーディネーター	1名	日本糖尿病療養指導士	3名	心臓リハビリテーション指導士	1名
緊急臨床検査士	1名	健康食品管理士	1名	未病専門指導師	1名
認定心電技師	2名	栄養サポートチーム療法士	1名	認定病理検査技師	1名

※平成 27 年度新たに認定血液検査技師 1 名、認定病理検査技師 1 名取得した

3 来年度の課題

- ・診療部、看護部、診療技術部との密な連携を確立し、チーム医療に貢献できるよう業務や人員配置の改善を行いたい。
- ・臨床や他部門からの様々な要望に応えるため、全員の技師が何らかの認定専門資格取得に向けて挑戦できるよう職場の環境作りを心掛け人材育成を目指したい。
- ・外来採血患者数の増加に伴う採血の待ち時間削減や、体外受精、超音波検査の検査件数増加に伴う対応として、人員配置の見直しやシステムの改良を行うなど職場の体制改善を積極的に行いたい。
- ・診療部と連携し院内での新規測定項目を積極的に検討していきたい。

(文責 石川 隆之)

## ■中央放射線科

### 1 スタッフ

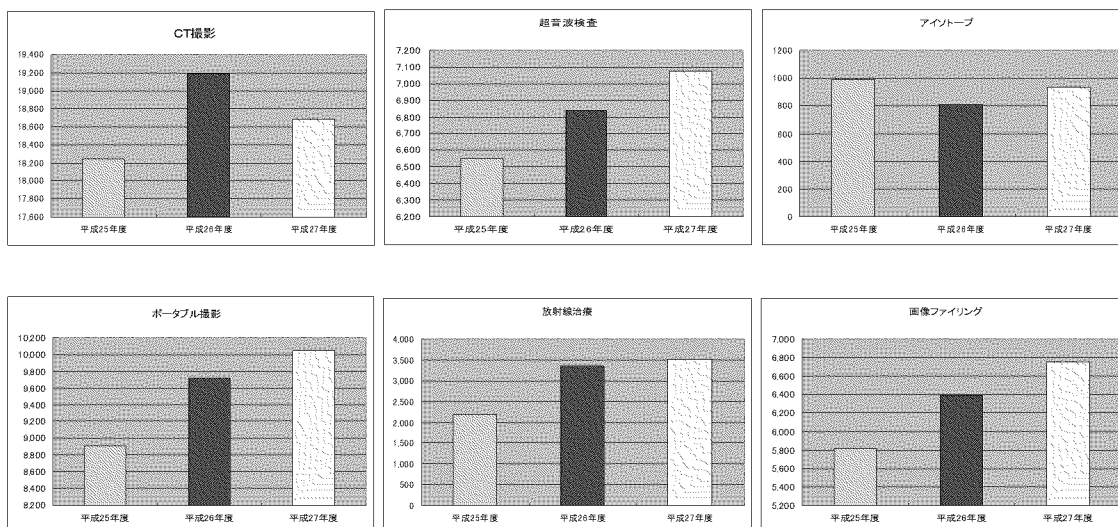
役 職	氏 名	役 職	氏 名
技師長	井出 宣孝	副技師長	高木 省一
参事補兼主任	清水 則雄	参事補兼主任	遠藤 佳秀
参事補兼主任	遠藤 一弘	主任	池谷 幸一
主任	鈴木 和訓	主任	菅原 和仁
主任	杉山 伸一	主任	鍋島 雄和
主任	稲垣 伸一	主査	酒井 理香
主査	井出 敦之	主査	澤口 信孝
上席診療放射線技師	大森 知枝	上席診療放射線技師	太田原 絢子
上席診療放射線技師	岡田 和教	上席診療放射線技師	猪股 崇亨
上席診療放射線技師	秋田 真弓	上席診療放射線技師	岡根谷 侑
診療放射線技師	神田 直樹	診療放射線技師	増田 裕司
診療放射線技師	湯山 桃子	診療放射線技師	鈴木 浩之

### 2 平成 27 年度の業務実績

(人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般撮影	33,302	32,816	33,171
乳房撮影	424	414	414
ポータブル撮影	8,910	9,722	10,045
心臓カテーテル検査	989	1,129	1,053
その他血管造影	134	198	169
C T 撮影	18,247	19,187	18,687
M R I 検査	5,558	5,378	5,312
アイソトープ	990	808	936
骨塩定量	212	226	248
T V 撮影	1,064	949	972
結石破砕	538	591	533
放射線治療	2,183	3,171	3,514
口腔外科撮影	2,277	2,311	2,510
超音波検査	6,551	6,837	7,072
画像ファイリング	5,818	6,390	6,757
妊婦検診数	2,493	2,079	2,269

注：本年報の別ページ【9 業務概要(12)放射線撮影件数】は照射件数を記載



- ・夜間、休日の脳疾患における緊急 MRI 検査を実施し、実績は 173 件で今後は拡大していく傾向で、即時対応が可能である。
- ・ポータブル撮影件数は毎年増加傾向で、医療安全の目的で開胸腹の術後ポータブル撮影の依頼があり対応している。撮影検査は 1,515 件であった。
- ・超音波装置の更新で検査は昨年実績を大幅に更新し、当日対応が可能になった。
- ・脳血管内手術件数は 23 件で、チーム医療に貢献できるような体制を構築した。
- ・高エネルギー放射線治療（リニアック）の患者数 180 人、照射件数は 3,514 件で、増加傾向である。地域がん診療連携拠点病院取得に向け努力していく。

### 3 来年度の課題

平成 28 年度 目標

「専門性を高めた医療の質向上」

中央放射線科に要求されている業務は、高精度な診断や治療を行うための情報の提供である。装置の性能を十分に発揮できるように、それを扱う技師も常に最新の技術の取得に努める。

- ・最近の放射線診断機器・治療機器は、著しく早いテンポで進歩している。これらを用いて先進的な医療を実現するためには、知識の習得・技術の向上はもとより、他の部門のスタッフとの連携も重要であり、全てのスタッフがチーム医療の一員としての自覚を持ち、患者さん中心の医療を実現するように努める。
- ・我々は病診連携（高度医療機器利用）の充実を図り、検査ニーズに応えるべく地域医療レベルの向上に努める。

（文責 井出 宣孝）



## ■臨床工学科

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
技師長	西田 英明	副技師長	山元 義雄
上席臨床工学技士	佐野 達哉	上席臨床工学技士	勝間田 賢
上席臨床工学技士	諏訪部 新	上席臨床工学技士	杉山 弘一

### 2 平成 27 年度の業務実績

	手術室業務			心カテ室業務 (* 3)	ペースメーカー 関連
	臨床業務 (* 1)		保守点検業務 (* 2)		
	定時	緊急			
25 年度	21	0	496	939	491
26 年度	43	4	476	1,018	576
27 年度	51	0	447	962	556

	ME 機器室業務 (* 4)			血液浄化療法業務 (* 5)
	呼吸器関連	心電図モニター 一関連	輸液ポンプ・ 吸引関連	
25 年度	1,430	123	6,666	72
26 年度	1,290	20	6,843	59
27 年度	936	29	6,634	71

#### ME 機器 教育研修実績 (回数)

	25 年度	26 年度	27 年度
呼吸器・輸液ポンプ・IABP・CHDF 等取り扱い勉強会	5	19	28
手術室 ME 機器勉強会	10	6	7

- \* 1 主に心臓外科手術人工心肺操作、心臓血管外科・整形外科・脳神経外科などの自己血回収装置操作、PCPS 操作。
- \* 2 主に麻酔器、気化器、炭酸ガスモニター、IABP、PCPS、人工心肺装置、血液ガス分析装置、除細動器の保守点検。
- \* 3 心カテ室業務は総数。ペースメーカー (PM) 関連は「PM 外来」、「植え込み術」、「植え込み患者手術立会」、「植え込み後チェック」。
- \* 4 ME 機器室業務。主に呼吸器組立、心電図モニター、輸液ポンプ類点検。
- \* 5 主に CHDF、PMX、PE、透析室以外での血液透析。

### 3 来年度の課題

循環器関連業務では PTA（経皮的下肢血管形成術）症例が増し、心臓カテーテルと並列で行われることが増えた。心臓血管外科手術症例は、大きな増減はなく推移している。ペースメーカー外来患者が増し、ペースメーカーチェック及び記録にともなう外来時間は従来に比べ時間は延長している。循環器関連に伴う資格として、体外循環技術認定士取得者が1名いるが、今後は資格取得者が複数になるようにしていきたい。資格取得者においても、知識技術を磨けるよう、学会及びセミナーなどに参加させ、臨床においてその技術及び知識を更に活かせるようにしていく。

血液浄化においては、腹水濃縮（CART）の件数は大きな変化はないが、婦人科、消化器内科からの依頼が増えた。透析液水質加算に係る施設基準においては、学会主催の講習会に参加し透析液水質基準に関する知識及び技術の習得、現在の病院書類に記載されている、臨床工学技士責任者の世代交代を図る。また、CHDF（持続血液緩徐濾過透析）の夜間管理において、ICU 委員会で診療部から要請があり、同委員会で承認され、診療部長会議で周知されたのちに、拘束者の夜間対応（休日日勤含む）を行っている。これに伴い、夜間拘束者の呼び出し件数の増加が予想される。

医療機器及び医療技術は日進月歩なので、その情報を得るように努力するとともに、科の目標である「安全安心な医療技術の提供」ができるようにしていく。ひいては病院目標である「この病院に来てよかったと思える医療の提供」に繋げていく。

（文責 西田 英明）

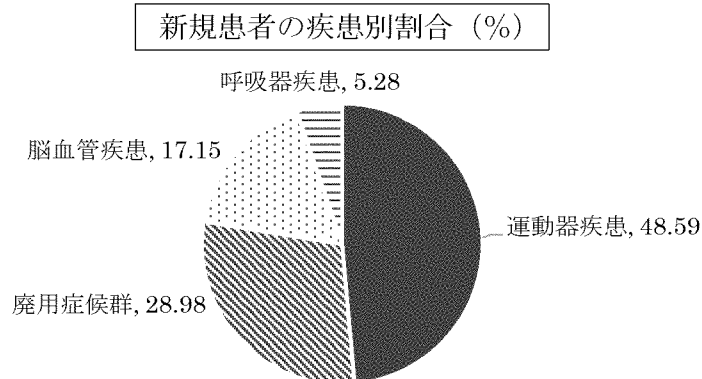
## ■リハビリテーション科

### 1 スタッフ

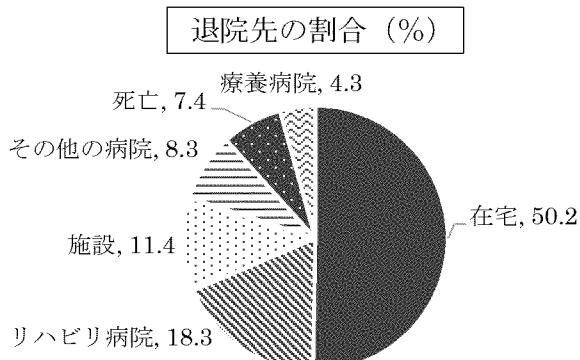
役職	氏名	役職	氏名
技師長（理学療法士）	藤本 浩二郎	主任（作業療法士）	中村 公美
主査（理学療法士）	和泉 裕美子	主査（理学療法士）	深澤 史朗
上席作業療法士	竹川 圭亮	上席言語聴覚士	幾島 邦人
上席言語聴覚士	石井 玲奈	理学療法士	山田 将史
理学療法士	加藤 智乃	理学療法士	永嶋 泰玄
理学療法士	梅原 健人	作業療法士	其田 かなた
医療補助員	鈴木 千智世		

### 2 平成 27 年度の業務実績

- ・入院・外来患者に対するリハビリ実施単位数は、本年報の別ページ【9 業務概要 (28) リハビリテーション実施状況】に記載あり。
- ・年間のリハビリ依頼件数は 2,178 件で、入院 1,978 件・外来 220 件であった。
- ・リハビリ依頼の約 9 割を入院患者が占め、入院患者の疾患別割合は運動器疾患が約 49%、廃用症候群が約 29%、脳血管疾患が約 17%、呼吸器疾患が約 5%であった。



- ・入院患者の退院先は以下の表の様に在宅復帰は全体の約 50%を占め、リハビリ専門病院への転院は全体の約 18%であった。



- ・リハビリ依頼からリハビリ開始までは0.76日でリハビリ介入率は病院全体の33%、リハビリ開始前後のFIM改善値は平均21点だった。
- ・毎週金曜日のリハビリ回診へPT・OT・STが各1名ずつ参加した。
- ・褥瘡・NST・呼吸器・嚥下・緩和ケアの回診に参加した。
- ・必要時に患者・家族・ケアマネージャー等の他スタッフとのカンファレンスを行った。
- ・スタッフ間の治療技術・知識共有を図るためのリハビリテーション科勉強会を月に1度開催した。
- ・看護学校での講師、市民向けの出前講座（認知症2回・転倒予防2回・褥瘡予防1回）を行った。

### 3 来年度の課題

- ・超急性期からのリハビリ介入を目指し、周術期患者へのリハビリ提供の充実・ICU入室患者への100%リハビリ提供を目指していく。
- ・平成28年度にリハビリスタッフの増員が予定されているので、一人の患者に提供できるリハビリを充実させていきたい。(PT・OT・STの全てが介入できる患者を増やす・患者一人当たり提供できる単位数を増やす。)
- ・リハビリ依頼からリハビリ開始までの日数は1.0日未満を維持し、FIM改善値は廃用症候群以外では25点以上、廃用症候群では20点以上と目標を定めた。
- ・各回診への参加・学術研究・勉強会・出前講座等の講師は今までどおりに行っていく。

(文責 中村 公美)

## ■栄養科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
主査（管理栄養士）	小俣 朋子	上席栄養士	古郡 朝子
栄養士	大山 実希	栄養士（R）	川口 みどり

※（R）は臨時職員

### 2 平成 27 年度の業務実績

#### （1）給食管理業務

- ・献立作成・発注・検収・材料仕込み・調理・盛り付け・配膳・下膳・食器洗浄の一連の給食業務は全面委託である。
- ・箸・スプーン及びマグカップの配膳に対し、返却数・破損状況の把握として、毎月第2土曜日の昼食後に数量確認・定数管理を行っている。
- ・献立会議を毎週1回開催し、検食時の所見を考慮した改善策を協議。また嗜好調査を年4回、一般食・常食喫食者を対象に実施。協議内容、調査結果を踏まえて改善策を講じ、献立に季節感を取り入れ、よりよい食事提供ができるよう努めた。
- ・産科食は1日3食、その他一部の食種（一般食・常食、軟飯食、全粥食、高血圧食、塩分6g制限食、学童食、学食）については1日朝・夕2食を毎日選択メニューで対応し、選択メニュー加算（1食17円追加）を実施した。

#### （2）栄養管理業務

- ・全入院患者の栄養管理状況の把握として、栄養管理計画書の作成が必須となっているため、栄養管理計画書は毎日作成し、年間作成件数は22,091件となった。
- ・栄養サポートチーム加算の算定は6年が経過しており、当初からNST専従職員は管理栄養士が担当している。  
また、NST回診、嚥下・口腔ケア回診、褥瘡回診にも参加（回診実績は別紙参照）し、チーム医療の活動を通して多職種との連携を強め、より患者個々に応じた食事内容、栄養計画の作成、栄養評価が可能となった。
- ・NSTの摂食嚥下・口腔ケアチームのメンバー（耳鼻科医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士）と連携し、引き続き嚥下食形態や新しい食材の導入を検討していく予定である。
- ・講師依頼として、緩和ケア担当委員会の勉強会「化学療法中の栄養摂取について」を20名に実施した。
- ・集団栄養指導は、腎臓病教室（腎臓病と食事）は年2回実施。

- ・個別栄養指導の業務実績は以下のとおりである。

表) 個別栄養指導件数の推移と指導内容の内訳

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
個別栄養指導件数	479	541	696
栄養指導内容 内訳 (件数)			
1	糖尿病及び合併症 (181)	糖尿病及び合併症 (185)	糖尿病及び合併症 (264)
2	妊娠糖尿病 (87)	妊娠糖尿病 (83)	妊娠糖尿病 (100)
3	C K D 及び透析 (52)	C K D 及び透析 (69)	C K D 及び透析 (66)
4	嚥下食 (28)	嚥下食 (35)	嚥下食 (39)
5	消化管切除術後 (27)	消化管切除術後 (31)	消化管切除術後 (35)

\*糖尿病及び合併症には I 型糖尿病・糖尿病性腎症も含む。

\*その他として、高度肥満・脂質異常症、高血圧症、胆のう、顎間固定食などの件数が多かった。

### (3) その他の業務

- ・実習生として富士調理技術専門学校より 2 名、日本短期大学部食物栄養学科より 8 名の受け入れを実施。
- ・市立看護学校 1 年生の栄養学の講師を担当。

## 3 来年度の課題

- (1) NST を通じて他部門との連携を強化し、病棟訪問も視野に入れ、患者個々に応じた栄養管理の実践に努める。
- (2) 今後も経腸栄養剤や栄養補助食品等の見直し・検討を行い栄養管理に努めていく。
- (3) 栄養管理業務を実施する上で医療に関わる一員として、学会やセミナーに参加、認定専門資格の取得・維持をすることで、より専門性を高めていくとともに、人材育成としても認定専門資格(\*)の取得を目指す。

### \*認定専門資格

NST 専門療法士、TNT-D 認定管理栄養士、日本糖尿病療養指導士 (CDEJ)、病態栄養認定管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士 など

(文責 小俣 朋子)

## ■医療技術科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
主任（視能訓練士）	遠藤 陽子	上席視能訓練士	平岩 弘子
上席歯科衛生士	北澤 美幸	歯科衛生士	長橋 あゆみ
歯科衛生士	片瀬 未希	歯科衛生士（R）	佐野 静香（～7月）
歯科衛生士（R）	竹川 綾香（5月～）	歯科衛生士（R）	竹川 冴香（10月～）
准看護師（R）	谷 真裕美		

※（R）は臨時職員

### 2 平成 27 年度の業務実績

#### （1）視能訓練士

- ・外来、入院患者に対する眼科検査及び患者数【表 1、2 参照】
- ・月、火曜日の午後、OP 室にて眼科手術介助
- ・脳ドックにおける眼底撮影 49 件
- ・健康診断 89 件

#### 検査数

【表 1】

検 査 名	件 数	検 査 名	件 数
矯正視力検査	8,882	網膜電位図（ERG）	3
眼鏡処方	169	視覚誘発電位（VEP）	1
角膜曲率半径測定	1,257	眼底カメラ	30
角膜形状解析検査	5	眼底カメラ（自発蛍光撮影法）	21
中心フリッカー	129	眼底三次元画像解析	1,768
定量色盲表検査	17	蛍光眼底カメラ（フルオのみ）撮影	87
パネル D-15	3	蛍光眼底カメラ（フルオと IA）撮影	14
両眼視機能検査	1	超音波検査（Aモード）	146
動的量的視野検査	79	超音波検査（断層）	27
静的量的視野検査	890	角膜内皮細胞顕微鏡検査	541

#### 患者数

【表 2】

項 目	人 数	項 目	人 数
ロービジョン外来	7	オルオケラトロジー	1

## (2) 歯科衛生士

- ・年間口腔ケア依頼件数 213 件
- ・周術期口腔衛生管理依頼件数 106 件
- ・外来における外科手術の介助、器材準備・片付け 2,040 件
- ・外来における障害者・有病者に対する歯科診療補助 530 件
- ・全身麻酔科における障害者・有病者に対する歯科診療補助 9 件
- ・麻酔科診察時の患者への説明、検査項目・データ確認 192 件
- ・市民向けの出前講座 4 回
- ・院内講習会の講師 1 回
- ・富士市立看護専門学校での講師 1 回
- ・日本歯科衛生士会 認定歯科衛生士研修会への参加 1 名
- ・NST 回診への参加 (嚙下チーム・栄養科チーム)

## (3) 准看護師

- ・外来における外科手術の介助、器材準備・片づけ 2,040 件
- ・全身麻酔科における障害者・有病者に対する歯科診療補助 9 件
- ・麻酔科診察時の患者への説明、検査項目・データ確認 192 件
- ・口腔外科外来における点滴実施件数 120 件

## 3 来年度の課題

### (1) 視能訓練士

- ・ロービジョン情報の習得と、患者への周知と業務内容の充実を図る。
- ・さらなる知識、技術の向上のため、認定視能訓練士資格取得を目指す。
- ・学会への積極的参加を図る。
- ・スタッフ間で情報を共有し連携を深める。

### (2) 歯科衛生士

- ・スタッフ間で情報を共有し、スムーズな診療と満足度の高い医療の提供。
- ・周術期口腔ケア対象患者の周知を行い、患者数・システムの充実を図るとともに、術前から術後までの包括的な口腔ケア介入を目指す。
- ・技術向上のため、各種研修会への積極的な参加。
- ・口腔外科外来における、各種勉強会への積極的な参加。

### (3) 准看護師

- ・スタッフ間で情報を共有し、スムーズな診療と満足度の高い医療の提供。
- ・口腔外科外来における、各種勉強会への積極的な参加。

(文責 平岩 弘子)



## ■ 薬剤科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
薬剤科長(兼)	藤本 浩二郎	副薬剤科長	落合 敏明
参事補兼主任	加藤 寛史	主任	三澤 延司
主任	渡辺 浩臣	主任	大滝 哲也
主査	鈴木 正隆	主査	川口 敬
主査	望月 保子	上席薬剤師	柴田 貴子
上席薬剤師	佐藤 実香	上席薬剤師	木元 慎一郎
上席薬剤師	後藤 和美	上席薬剤師	阿部 一仁
上席薬剤師	岩本 一徳	上席薬剤師	松田 佑平
上席薬剤師	村松 香奈	薬剤師	小林 正典
薬剤師	小坂 裕介	薬剤師	木村 佳弘
業務員	高橋 純子	業務員	大箸 悦子
業務員	渡辺 美智子	業務員	伊東 江里
業務員	渋谷 裕子		

### 2 平成 27 年度の業務実績

業 務 分 類	区 分	業 務 内 容
調剤業務	外来調剤	調剤 薬剤情報提供と服薬指導 お薬手帳用ラベル提供 アレルギー副作用カードの運用（皮膚科のみ）
	入院調剤	調剤 退院時、薬剤情報とお薬手帳用ラベル提供
	注射薬調剤	注射薬個別払い出し（輸液と共に） がん化学療法のレジメン・プロトコール管理、 抗がん剤調製（休日含む）
製剤業務		市販されていない薬剤の製剤調製
試験業務		TDM（治療効果・副作用管理・処方設計支援）
医薬品情報業務	情報業務	医薬品情報収集・整理・配布・保管、緊急安全性 情報等の院内配布、薬剤管理指導業務への支援、 副作用モニタリングへの関与

業務分類	区分	業務内容
薬剤管理指導業務	指導業務	入院時薬歴・相互作用チェック・持参薬の鑑別・再分包・管理・薬の説明・副作用チェック・退院時指導、医師・看護師等との打ち合わせ・カンファレンス出席
薬務業務		購入管理、在庫管理、補給管理、品質管理、麻薬管理、毒薬劇薬保管管理、薬剤委員会業務
治験管理業務		治験薬の登録・調剤・管理
その他	医薬品安全管理	院内ラウンド、リスクマネージメント他
	研修活動	院内・院外研修、学術発表他
	教育活動	薬学生実務実習受入（2名）、腎臓病教室、市内小・中・高校の職場体験
	院内活動	各種委員会への参画

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
薬剤管理指導件数	4,751	6,483	5,754
持参薬鑑別件数	4,818	6,851	7,167
個別注射薬払い出し件数	270,980	275,952	249,773
再分包件数	1,302	1,992	2,023
TDM	433	394	358
保険薬局からの疑義照会件数	3,305	4,082	3,548

### 3 来年度の課題

- (1) 電子カルテと部門システムの更新と再構築
- (2) 副作用の一元管理とアレルギー副作用カードの運用

(文責 落合 敏明)

## ■看護部長室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
副院長兼看護部長 (日本看護協会認定看護管理者)	遠藤 さよ子	副看護部長(総務担当)	伊藤 すみ子
		副看護部長(教育担当)	藤澤 睦子
		医療補助員	白井 美登里

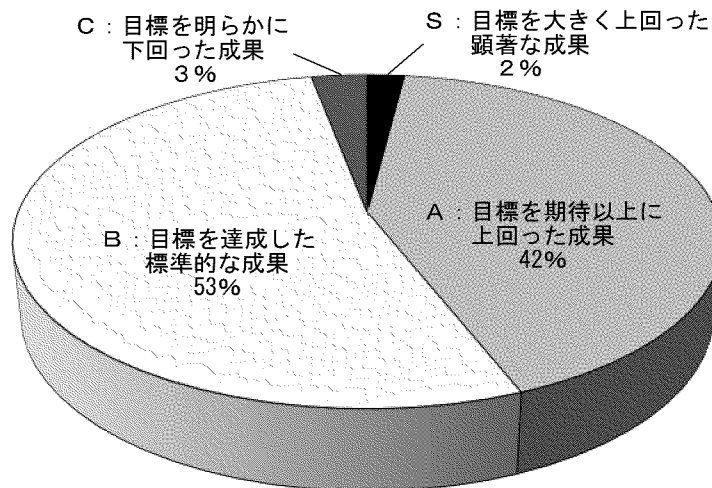
### 2 所属の特色

看護部長室には、副院長兼看護部長と2名の副看護部長、事務を担当している医療補助員の計4名が在籍しており、スムーズな看護部組織運営のため、副看護部長は総務担当と教育担当に業務を分担している。さらに、看護部長室は必要な情報を的確かつ迅速に看護長へ伝達するとともに、看護長からの看護部への報告も徹底され問題解決に向け対応している。

### 3 平成27年度の目標及び評価

目標「看護の専門性を高め、患者・家族の思いを大切にした看護を提供する」

達成度評価：



#### 行動目標

##### 1 知識・技術を深め、責任ある看護を実践する

- ・教育委員を中心に、毎月計画的に勉強会を実施した
- ・ミーティング、病棟会、チーム会で研修実施後の伝達を行った
- ・災害時の対応シミュレーションを実施し初期行動の評価を継続して行っている
- ・緊急時対応で各役割が発揮できた
- ・各科のファイル見直しを計画的に行った

- ・ミニ勉強会を実施（昼時間の活用）している
- ・転倒・転落、誤薬に関するリスクの検証を行い対策に繋がった
- ・フラダーの段階に合わせた研修参加を推進した
- ・患者カンファレンスの実施し、統一したケアの提供をした
- ・病棟間で連携を取り看護ケアに繋がった
- ・感染委員の活動で、手指消毒薬使用量が増加した
- ・スキンケアの勉強会を行い、患者ケアに活かすことで褥瘡発生が減少した

## 2 丁寧な対応と言葉かけを行い、患者・家族に寄り添った看護を実践する

- ・医療カンファレンスで参加者全員発言できた
- ・医師とのカンファレンスを実施している
- ・カンファレンスの基準、ウォーキングカンファレンスの基準を作成した
- ・患者参加カンファレンスを実施し、基準を作成した
- ・接遇に関する勉強会を実施し「お褒めの言葉」につながった
- ・患者・家族からの「お褒めの手紙」の件数が増加した
- ・在院日数短縮への取り組みとして、掲示板の利用を行い情報の共有を図った
- ・5S活動の取り組みで安全な療養環境を提供し、療養環境が整備された
- ・身だしなみを意識して行動することに繋がった
- ・患者・家族の思いを傾聴し、カンファレンスで情報共有しケアに繋がった

## 4 業務実績

	で き ご と
4月	昇任：参事1名 副看護長4名（認定看護師3名）、主任3名、主査4名 ・共立蒲原総合病院地域連携医療支援室に看護長1名出向（1年延長） ・組織編成改正で新設された感染対策室に増田主任配置
5月	・DINQL事業についての合同研修 ・DINQL事業に11病棟参加申込み ・平成27年度からの病院事業計画に沿って各所属別に院長ヒアリング（～6月）
6月	・NICU9床稼働 ・市の看護師実務研修への協力（～1月） ・変則勤務検討委員会発足（ICU・外来・4A・6A・総務課人事担当） ・平成27年度病院事業計画に変則勤務体制検討を追加 ・第5次採用試験（2名） ・「看護師・助産師の資格取得に関する取扱規程」一部改正（入学科、授業料の助成）

	で き ご と
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立こども病院研修（望月真理・神谷ちとせ・羽二生朱美）</li> <li>・ NICU（酸素・吸引等）配管工事</li> <li>・ 雙葉中学病院見学2名</li> <li>・ 日本看護協会主催 DINQL 事業説明会参加（伊藤・水野・植松）</li> <li>・ 平成 28 年度採用試験（1次募集）</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新採用者2名辞令交付</li> <li>・ 院内学術集会で緩和ケア担当委員会（アロマ）優秀賞</li> <li>・ 高校生1日体験ナース40名</li> <li>・ 医薬学生病院見学14名（4A・4B・6A・6B・7A・7B）</li> <li>・ DINQL 入力開始</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DINQL 課題の共有と対応のためプロジェクト編成</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年度採用試験（2次募集4名）</li> <li>・ 変則勤務検討委員病院視察（沼津聖隷病院）</li> <li>・ 合同会議 再任用の現状を知り人材活用に繋げるための情報共有</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変則勤務検討委員病院視察（静岡市立病院）</li> <li>・ 岩松中学職場体験6名</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岳陽中学校職場体験6名</li> <li>・ 変則勤務試行（外来・ICU）</li> <li>・ がんセンターCN 実習受け入れ（1名）12月3日～1月15日</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年度採用試験（3次募集）</li> <li>・ ICU 6 床稼働に向けて改修工事</li> <li>・ 変則勤務体制について全看護師対象説明会（3回）</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変則勤務試行（6A）</li> <li>・ 元吉原中学職場体験（1名）</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変則勤務試行（4A）</li> </ul>

\* 富士市職員自主研究グループ活動として、12グループが活動参加した。

\* 研修報告会を毎月第3火曜日（12時45分～13時）に実施し、18名が研修報告した。

\* 認定看護師取得に向け静岡県立がんセンターの受験を推進した。

\*日本看護協会資格認定制度 有資格者

・認定看護管理者

	氏 名
平成 23 年	高井 みさ子
平成 26 年	遠藤 さよ子
	田中 稔

・認定看護師

	氏 名	分 類
平成 18 年	村松 由貴子	がん化学療法看護
平成 19 年	望月 久子	手術看護
平成 22 年	若林 久美子	皮膚・排泄ケア
平成 24 年	村松 和歩	訪問看護
	加藤 美奈子	慢性呼吸器疾患看護
平成 25 年	本間 功武	感染管理
平成 26 年	佐野 世佳	集中ケア
平成 27 年	深澤 知里	集中ケア

\*院内認定看護師

	氏 名	分 類
平成 25 年	赤堀 崇代	退院調整

5 平成 28 年度の目標

「療養環境を整え信頼できる看護を提供する」

- 行動目標：1. 知識・技術を深め責任ある看護を実践する  
 2. 丁寧な対応を実践する  
 3. 多職種と連携・協働を図る

(文責 遠藤 さよ子)

## ■外来

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	北島 美鈴	参事兼副看護長	西家 裕子
参事兼副看護長	佐野 まり子	参事兼副看護長	田中 慶子
参事兼副看護長	後藤 光子	副看護長	白戸 幸子
副看護長	田島 眞弓	副看護長	鈴木 早苗
副看護長	齋藤 洋実	副看護長（認定）	村松 由貴子
主任	杉本 祐介	主任	滝澤 佐織
主任	久保田 京子	主査	7名
看護師	71名	准看護師	7名
医療補助員	46名	業務員	2名

### 2 所属の特色

当院の外来は 22 科の一般外来と、内視鏡・放射線科・救急外来で形成されている。内視鏡、放射線科は、予定の検査・治療と緊急時に対応できる看護体制となっている。内視鏡検査・治療 4,717 件、放射線科では心臓カテーテル検査・治療 1,207 件、その他血管造影 163 件、脳血管内治療 25 件を行った。救急外来では、地域の二次、三次救急を 24 時間体制で受け入れている。

精神神経科医師が常勤となり診療の幅が広がった。また、東京慈恵会医科大学附属病院から膠原病科の医師が週 1 回派遣され、主治医を通して患者相談を開始した。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標：外来各科の専門性を高め、患者・家族に安心して安全な看護を提供する

評価：1) 外来全体会でケーススタディ 3 件と内科糖尿病指導の研究発表を行い、知識の共有と看護実践に繋げた

2) 始業時に身だしなみチェックをスタッフ間で行い意識の向上に努め、思いやりのある対応を心掛け実践した

### 4 業務実績

- ・急変時対応シミュレーションと接遇シミュレーションを実施した。
- ・妊娠糖尿病患者に統一した指導が行えるようマニュアルを見直し改訂した。
- ・地域とのつながりを意識し病棟と連携を図り、看護連絡票を 378 件活用し継続看護に取り組んだ。

### 5 平成 28 年度の目標

安心して受診できる外来環境を整え、信頼ある看護を提供する

1) 知識・技術を深めるよう自己研鑽に努める

2) 明るい挨拶と、丁寧な対応をこころがける

3) 多職種と連携を図り、迅速な対応を実践する

(文責 北島 美鈴)

## ■在宅療養支援グループ

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	齋藤 幸子	副看護長	村松 和歩
副看護長	渡邊 裕子	主査	加藤 浩子
主査	赤堀 崇代	上席看護師	佐藤 美智子

### 2 所属の特色

在宅療養支援グループは、総合相談センターと退院調整・訪問看護を担当している。総合相談センターでは、患者・家族が安心して療養生活（在宅・入院を問わず）を過ごせるように、不安や疑問に対して看護師の専門性を活かし相談に応じている。

退院調整・訪問看護においては、訪問看護認定看護師を中心に退院支援および訪問看護サービスを行っており、「より身近に、よりの確に、より優しい看護を提供します」を理念に在宅療養移行支援を実践している。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標：「多職種との連携を強化し、質の高い患者・家族の望む療養に繋げる」

- 1) 優しい対応と適切な説明で、あらゆる相談に応じる
- 2) 患者・家族の思いを汲み取り、満足のいく意思決定支援を実践する
- 3) エビデンスに基づいたきめ細やかな訪問看護を実践する

評価：1) 接遇に注意し、相手の立場になって苦情・相談・案内などを実施した  
2) 定期の退院調整カンファレンスやリハビリ回診に参加し、院外の多職種とも協働して患者・家族の意向に沿った退院支援を実施した  
3) 研修や学会参加、実地指導等により知識・技術の向上に努めた。また、スタッフ間で看護の振り返りを言語化し実践に活かした

### 4 業務実績

- 1) 毎週 1 回総合相談カンファレンスと病棟巡回を実施した。総面談件数は 239 件(看護相談 164 件、苦情 75 件)であった
- 2) 各病棟毎週 1 回の定期的な退院調整カンファレンスと毎月 1 回の退院支援カンファレンスを実施した。退院調整実施患者数は 2,068 名であった
- 3) 訪問看護実施患者数 77 名、延べ訪問回数 1,291 回であった

### 5 平成 28 年度の目標

目標：「院内外の多職種と協働し、患者・家族が主体となる支援を実践する」

- 1) 相談しやすい場の提供と患者目線での対応をする
- 2) 患者・家族の意向に寄り添った退院支援を実践する
- 3) 患者・家族の思いを大切にし、QOL を向上できるように在宅看護を実践する

(文責 齋藤 幸子)



## ■手術室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	小林 由美	副看護長	加藤 美奈子
副看護長	望月 久子	主任	石川 裕子
主査	5名	看護師	20名
委託(ダスキン)	5名		

### 2 所属の特色

当院手術室は、12科の手術を、看護師数29名（認定看護師1名含む）で、外来手術を含め年間約3,700件以上行なっている。手術件数の増加、効率性を求められるなか、3交代勤務を行い夜間の緊急手術にも対応し、安全な手術看護を提供している。

### 3 平成27年度の目標及び評価

目標：手術の専門性を高め、患者に寄り添う看護を提供する

- 1) 術前アセスメント力の向上を図り患者個々に合った看護を提供する
- 2) 質の高い看護が提供できるように、自己研鑽に努める

評価：1) アセスメント力の向上を図り、アセスメント用紙を用いて術前訪問を行い、必要時特殊カンファレンスを実施した。カンファレンスにより術式に合わせた器械・物品の準備をすることができ、安全で効率的な手術室の運用ができた

- 2) 定期的に勉強会を開催し、シミュレーションを実施することができ、緊急性・危険性の高い手術に関する知識・技術をスタッフ個々が修得できた

### 4 業務実績

- 1) 手術室5ルームの再開に伴い、体制を整えた
- 2) 安全チェックリストを見直し電子カルテ入力に変更した
- 3) ラテックスアレルギーについて全病棟に説明を実施し、予防に努めた
- 4) 4名の看護師が周術期管理チーム認定看護師を取得した

### 5 平成28年度の目標

手術環境を整え、患者に寄り添った看護の提供をする

- 1) 患者に寄り添った看護提供ができるよう手術室内の体制を改善する
- 2) 多職種を含めた業務改善を実施する

(文責 小林 由美)

## ■中央材料室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長 (OP室・中材兼任)	小林 由美	参事兼副看護長	山本 栄理子
委託 (ダスキンマネジャー)	山岡 隆志	委託 (ダスキン)	9名

### 2 所属の特色

中央材料室は、患者に安全な滅菌医材を提供するため、委託業者と協力し、院内で使用する医材の滅菌業務（オートクレーブ・EOG・プラズマ）と病棟の検体や医材、伝票類、薬剤等の搬送業務を行っている。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標 患者に安全な滅菌・消毒医材を提供する

- 1) 滅菌・消毒医材管理と滅菌保証の向上を図る
- 2) 災害に備え防災対策を整える

評価 1) 現在使用の PCD の再検討を行いインジケータ・BI 設置数を増加、PCD 負荷方法を変更し滅菌保証の質を上げた。3月末に洗浄機、乾燥機が更新され、手洗いが削減し滅菌前の準備時間が今までより短縮した。また、時間を要していた蛇管やジャクソンリースの乾燥・組立が勤務時間内に可能となった。プラズマ・高圧蒸気などの滅菌機や医材の経年劣化が目立ったため、修理対応や不良医材のメンテナンスに重点を置き対応することで、現場での使用に支障のないように努めた

2) 防災訓練の一環として ガス漏れ時の防毒マスクの装着練習や、避難方法について机上訓練を行った。滅菌機の「災害時対策掲示物」の見直しを行い手術室と共有した。また防災マニュアルの見直しも実施した。今年度より DMAT の医材滅菌を開始した

### 4 業務実績

- 1) 手動洗浄機が JW (ジェットウォッシャー) 洗浄機に更新され、手洗い洗浄業務が削減し洗浄時間が短縮された
- 2) AC・EOG・プラズマのインジケータ設置数を増やし PCD を変更、滅菌の質保証を上げた

### 5 平成 28 年度の目標

患者に安全な滅菌・消毒医材を提供する

- 1) 滅菌医材の質保証を保つ
- 2) 委託者とのコミュニケーションを図りリスクを共有する
- 3) 防災対策を進め災害に備える

(文責 小林 由美)

## ■ ICU（集中治療室）

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	植松 和子	副看護長	渡邊 かおる
主任	芳野 由規子	主任	小林 宏美
看護師	17名	医療補助員	1名

### 2 所属の特色

ICUは4床稼働で、平成27年度の延患者数は1,225名、病床稼働率は105.1%、病床利用率は83.7%と年々増加傾向である。入室患者を科別にみると、循環器内科（心臓血管外科を含む）99名、外科118名、脳神経外科63名、内科22名、産婦人科1名、整形外科9名、耳鼻咽喉科1名であった。看護体制はモジュール型継続受け持ち方式で、他部門と連携・協働し入室から退室まで責任をもち看護を行っている。

### 3 平成27年度の目標及び評価

目標「集中治療において患者・家族の思いに添った根拠ある看護を提供する」

行動目標

- 1) 高度医療に対応できる知識・技術を深める
- 2) 患者・家族の情報を共有し、その思いに添った看護を実践する
- 3) ICU防災マニュアルに基づいたシミュレーションを実施する

評価

- 1) 他職種と協働しカンファレンスを行い、高度医療に対応できる知識・技術を深め実践に活かすことができた。病棟勉強会を行い専門的知識・技術を深めることができた
- 2) 入室前オリエンテーション、退室後訪問により患者・家族の思いを聴き実践に活かすことができた
- 3) 防災シミュレーションを2回行った

### 4 業務実績

- 1) 医師・薬剤師・臨床工学技士・理学療法士を交えたカンファレンスを23回、シミュレーションを含めた勉強会を10回実施した
- 2) 退室後訪問において、入室中の看護を評価し看護の振り返りを行なった
- 3) 看護研究に取り組み静岡県看護学会で成果を発表した

### 5 平成28年度の目標

目標「集中治療を受ける患者・家族の環境を整え責任ある看護を実践する」

行動目標

- 1) 高度医療に対応した知識・技術を深めマニュアルを遵守する
- 2) 思いやりのある態度とわかりやすい言葉で対応する
- 3) 疾患に応じた合同カンファレンスを開催し連携・協働を図る

（文責 植松 和子）

## ■ 3 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	今野 美枝子	副看護長	秋山 ゆかり
主任	村田 弘子	主任	渡辺 まゆみ
主査	2名	看護師	24名
医療補助員	5名		

### 2 所属の特色

3 B 病棟は、脳神経外科・泌尿器科・整形外科 51 床と、感染病床 6 床を併設している。病気や障害と共に生きる患者・家族の思いに寄り添い、丁寧でやさしい対応、安全で確実な看護、患者の自立支援に努めている。ウォーキングカンファレンスを取り入れ、夜勤の受け持ち看護師の明確化と、患者の環境調整を行い、安心して入院生活を送れるよう配慮している。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標「医療者それぞれの専門性を発揮して、患者・家族の希望に沿った医療を提供する」

#### 評価

- 1) 患者家族の希望を取り入れて、カンファレンスを充実させる  
受け持ち看護師が中心となり、患者・家族の希望に沿ったカンファレンスを実施した。
- 2) 患者個々の生活自立に向けた支援を行う  
生活自立に向け、転倒転落・褥瘡予防に努めた。転倒転落が発生した場合は、ウォーキングカンファレンスで検証し、再発防止を行った。

### 4 業務実績

- 1) 申し送りを廃止しウォーキングカンファレンスを実施した
- 2) 介助食の見直し（業務の成果発表）
- 3) 医療補助員業務の見直しと、食事介助・清潔ケア実技チェックリストを作成し指導、介助技術の向上を図った
- 4) 新人教育・学生指導の見直し
- 5) ケーススタディ：嚥下リハビリテーション・がん患者への温罨法、アロマ足浴等での疼痛緩和

### 5 平成 28 年度の目標

「安全な療養環境を整え、患者・家族に寄り添った看護を提供する」

（文責 今野 美枝子）

## ■ 4 A 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	水野 博代	副看護長	小野田 智恵子
主任	大井 洋子	主任	小澤 花子
主査（看護師）	4名	主査（助産師）	5名
看護師	5名	助産師	7名
准看護師	1名	看護師（臨時）	1名
医療補助員	3名		

### 2 所属の特色

4 A病棟は、産科病棟であり、妊娠・分娩・産褥の患者さんが入院している。ベッド数は 32 床であり、その他陣痛室・分娩室・新生児室がある。スタッフは、患者一人ひとりを大切にしたい優しい看護の提供に努めている。

妊婦自身が、妊娠期間を快適に過ごせ主体的に分娩に臨めるよう「ファミリークラス」を毎月開催している。また「助産ケアルーム」では、妊婦の心配事や相談に随時対応している。分娩時は、産婦のバースプランに基づき、ニーズに沿ったお産となるよう努めている。産後は、バースレビューやクリニカルパスに沿って産婦の育児支援を行い、必要時は、フィランセやこども家庭課等との連携を図り、退院後も継続して母子支援を行っている。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標「知識・技術の専門性を追求し、思いやりのある医療を提供する」

- ・専門的知識・技術を高めるために、自己研鑽に努め責任ある医療を提供する
- ・倫理的配慮を持ち患者に寄り添った医療を実践する

評価

- ・患者の訴えや思いを傾聴し、WCF やショート CF 等で情報交換を行い、患者の意向に沿った看護ケアの実践に努めることができた
- ・受け持ち看護師は、バースプラン・バースレビューを基に看護ケアの振り返りを行い、必要時産婦人科外来やフィランセに看護サマリーを送り継続看護に努めた

### 4 業務実績

- ・地域連携を強化するために、フィランセの保健師との連絡会を 2 回実施した
- ・周産期カンファレンスを毎週木曜日に行い、安心・安全な医療の提供に繋げることができた
- ・2名の NCPR インストラクターが主体となり、毎週木曜日にシミュレーションを行っている

### 5 平成 28 年度の目標

「安心・安全な療養環境を整え、思いやりのある医療を提供する」

（文責 水野 博代）

## ■ 4 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	高橋 ハマ子	副看護長	東川 真理
主任	羽二生 朱美	主任	西崎 金苗
主査	7名	看護師	32名
医療補助員	3名		

### 2 所属の特色

4 B 病棟は、新生児から 15 歳までの小児が入院している。小児科をはじめ、耳鼻咽喉科・外科・脳神経外科・整形外科・形成外科等あらゆる科の小児が入院する。

ベッド数は、NICU（新生児特定集中治療室）10 床を含む 44 床である。NICU は、富士医療圏のハイリスク新生児を受け入れ、高度医療・看護を提供している。

病棟理念は「一人ひとりに丁寧な対応を心がけ、コミュニケーションを大切にしたい医療・看護を提供する」であり、患児・家族が安心して入院できる環境を整えている。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標：1) 自己啓発と継続学習に努め、根拠ある看護を提供する

2) 一人ひとりを大切にしたい丁寧な対応をする

評価：1) 週 1 回医師とケースカンファレンスを行い、治療に関する情報交換と医師による勉強会を兼ねることで知識を深め、看護に活かすことができた。また、急変時対応シミュレーションを週 1 回行い、スタッフ全員が年 3 回以上実体験することで、知識・技術の向上に繋がった

2) NICU では、母子分離になるため入院時オリエンテーションの対応を両親の気持ちを汲み取り、丁寧に行った。さらに面会時に一日の様子を説明することや、初回沐浴後の記念写真を添付した交換ノートを活用することで母親の不安軽減に努めた結果として、お褒めの言葉を頂く件数が増えた。一般病棟においても、付き添い者の気持ちに寄り添い、個別の対応をすることでご家族が安心して医療と看護を受けることができた

### 4 業務実績

NICU チームと一般病棟チームの看護師が、入院する全ての患児に安全に看護を提供するために、知識・技術の情報共有と統一に取り組んだ。各チームの特徴的な技術・看護について学び、知識・技術の向上に繋げることができた。

NICU では、面会時間の活用について検討し、入院中から退院後まで御家族の不安が軽減されるよう面会用紙を作成し、一人ひとりに合わせた継続看護に活かすことができた。

### 5 平成 28 年度の目標

- ・自己啓発と継続学習に努め、根拠ある看護を提供する
- ・安心した療養生活を送れるよう患者・家族に寄り添った看護を提供する
- ・お互いを尊重し、働きやすい職場環境を整える

(文責 森本 康江)

## ■ 5 A 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	勝又 千壽子	副看護長	中村 三千代
主任	加藤 珠永	主任	小林 二十美
主査	7名	看護師	19名
医療補助員	5名		

### 2 所属の特色

5 A病棟は耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・婦人科・外科・内科の5科からなる混合病棟であり、在院日数は数日から数ヶ月と幅がある。看護体制は3チームに分かれ、固定チームナーシングで受け持ち制をとっており、患者一人ひとりを尊重し寄り添った看護を提供するために患者家族参加型カンファレンスを行なっている。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標「各科の専門性を高め、信頼ある医療を提供する」

- 1) 各科ファイルの見直しを継続し、知識技術の最新情報を共有する
- 2) チーム医療に積極的に取り組む
- 3) 接遇力を向上させる

5科の各科ファイルの見直しは終了した。今後も継続していく。患者・家族参加型カンファレンスの実施率は3.41%と目標値を上回った。他部門とのカンファレンスも積極的に企画し情報共有ができた。接遇マナーの勉強会、事例検討を実施し接遇力の向上を図ることができた。

### 4 業務実績

- 1) 事例検討会：看護観 3件/年・デスカンファレンス 2件/年
- 2) 研修参加伝達講習：39件/年
- 3) 患者参加型カンファレンス：501件/年
- 4) 病棟勉強会：栄養フローチャート・倫理事例検討・婦人科疾患手術・ポジショニング・リスク・防災・顎間固定・鼻手術・深部静脈血栓・新人支援9回/年
- 5) 業務成果発表：効率よく作業ができる汚物室の環境作り

### 5 平成 28 年度の目標

目標「カンファレンスを充実させ、患者・家族の思いに沿った医療・看護を提供する」  
行動目標

- 1) 各科ファイルを活用し、知識・技術を深め安全な看護を提供する
- 2) 患者・家族参加型カンファレンスを定着させ、患者・家族にわかりやすい看護を実践する
- 3) 他部門とのカンファレンスの充実を図り、多職種と協力してチーム医療に取り組む  
(文責 勝又 千壽子)

## ■ 5 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	森本 康江	副看護長	柘植 範子
主任	藤田 久美子	主任	遠藤 喜巳子
主査	7名	看護師	19名
医療補助員	5名		

### 2 所属の特色

5 B病棟は外科病棟でベッド数は 56 床であり、患者の多くは消化器がんや乳がんなどでの手術、短期入院での検査や化学療法、緩和ケアを目的として入院している。このため看護師には、周手術期の看護をはじめ、化学療法や緩和ケアなど多くの専門的な知識や技術が求められる。固定チームナーシングを取り入れ、患者や家族の思いを尊重した看護を提供し、また、多くのクリニカルパスを使用して安心して安全な入院生活を送れるよう努めている。

### 3 平成 27 年度の病棟目標及び評価

目標「安全で安心な医療と看護の提供をする」

行動目標

- 1) 専門的知識に基づいた医療と看護を提供する
- 2) コミュニケーション力を高め、医療者、患者・家族と情報交換してチーム医療を実践する

評価

- 1) 医師とのカンファレンスを実施して、治療方針の確認と看護の方向性を明確にした。受け持ち看護師が早期から患者や家族と関わり、医師の推定した入院期間内に退院できるよう支援できた
- 2) 医療チームと協働し、カンファレンスの中で受け持ち看護師がプレゼンテーションを行い、情報共有した内容を実践に繋げた

### 4 業務実績

- 1) 病棟勉強会：食道がん・病的肥満症など、医師による勉強会を 6 回実施した  
月 2 回、がん化学療法認定看護師の勉強会を実施した
- 2) 業務改善：申し送りの短縮を試みた

### 5 平成 28 年度の目標

目標「専門職としての知識・技術・態度で対応する」

行動目標

- 1) 責任ある医療と看護を提供する
- 2) 倫理的配慮で対応する
- 3) 医療チームと連携・調整・協働する

(文責 松山 早登美)



## ■ 6 A 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	大塚 君子	副看護長	遠藤 里花
主任	渡辺 明子	主任	河合 利枝
主査	7名	看護師	20名
医療補助員	5名		

### 2 所属の特色

6 A病棟は、ベッド数 50 床の内科病棟で、主に、血液疾患・代謝系疾患の患者が入院している病棟である。血液疾患治療の為、無菌室 2 床が設置されており、化学療法とその看護に対応している。糖尿病患者に対しては、糖尿病療養士と共に教育プログラムに則り正しい知識の習得と自己管理をサポートしている。今年度は、「患者・家族の思いを尊重し、専門的知識に基づく質の高い医療を提供する」を目標に、患者・家族の思いに寄り添い、6 A病棟に入院して良かったと思われる看護を目指している。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標「患者・家族の思いを尊重し、専門的知識に基づく質の高い医療を提供する」  
行動目標

- 1) 患者一人ひとりの思いを大切にし、真心を込めた対応をする
- 2) 知識、技術の向上に努め、安全安楽な医療を実践する

評価

- 1) デスカンファレンス及び倫理的な問題を視点としたカンファレンスを実施したことにより、患者個々に応じた対応に繋がった
- 2) 病棟特有な疾患に対しての勉強会及び急変時に対するシミュレーション教育を実施したことにより、知識の共有ができた

### 4 業務実績

病棟勉強会：糖尿病の疫学と病態（講師赤嶺 Dr）・糖尿病指導のポイント（講師糖尿病療養指導士）・インフュージョンリアクションについて・ポジショニング デモンストレーション（褥瘡対策委員）・フィジカルアセスメントについて・高齢者の終末期ケアにおける倫理的問題について（研修参加者伝達講習）・急変時対応について（講義・シミュレーション 研修参加者伝達講習）

業務成果発表：快適な療養環境に対するスタッフの意識を高め、安全で清潔な環境を目指す

### 5 平成 28 年度の目標

目標「安心・安全な療養環境を提供し、患者家族の思いを大切にした医療を実践する」  
行動目標

- 1) 倫理的感性を高め、思いやりのある看護が提供できる
- 2) 知識・技術の向上に努め質の高い医療に繋げる

（文責 大塚 君子）

## ■ 6 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	花崎 久美子	副看護長	齋藤 正美
主任	白井 さつき	主任	笹木 一美
主任	山中 祐子	主査	5名
看護師	24名	医療補助員	6名

### 2 所属の特色

6 B 病棟は、呼吸器内科・腎臓内科の 54 床の病棟と透析室 10 床を兼務している。誤嚥性肺炎・肺腫瘍・慢性呼吸器疾患・慢性腎臓病などの患者さんが入院しており、人工呼吸器管理など高度な知識・技術が求められ日々看護の向上に努めている。

在宅酸素導入や、血液透析導入・腹膜透析導入に対し、わかりやすくプログラムを用い個別指導を行い、入院中・退院後の不安を軽減するよう心がけている。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標「専門性を発揮し、患者・家族を尊重した看護を提供する」

行動目標

- 1) 知識・技術・態度の向上に努め、責任ある看護を実践する
- 2) 患者・家族の思いに寄り添った看護を実践する

評価

- 1) 個々が積極的に研修に参加し、また計画的に病棟勉強会を実施したことで、知識の向上に繋がり、看護実践に活かすことができた。倫理・デスカンファレンスで看護の振り返りを行い、倫理感性が高められた
- 2) Dr・患者カンファレンスは習慣化され、個別性のある看護ケアの実践ができた。多職種と連携を図り、患者・家族に寄り添った具体的な退院調整に繋げることができた

### 4 業務実績

- 1) 病棟勉強会：腹膜透析・地震時の初期行動訓練・NPPV 療法・救急蘇生シミュレーション・サルコペニア・おむつの当て方・身体障害者申請
- 2) 事例検討：倫理・デスカンファレンス（4 回／年）多職種での意見交換により、患者・家族への関わりや心理的な変化など、事例を通し看護を深めることができた
- 3) 業務成果発表：「6 B 病棟における 5S 活動への取組み」心地よい療養環境を提供することができた

### 5 平成 28 年度の目標

目標「患者・家族の思いを大切にし、安全な医療・看護を提供する」

行動目標

- 1) 安心して入院・治療が出来る環境を整える
- 2) 患者・家族に丁寧な対応と言葉がけを行う
- 3) チーム医療の一員として、医療・看護の専門性を発揮する

（文責 齋藤 正美）

## ■ 7 A 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	勝山 弘子	副看護長	松山 早登美
主任	齋藤 カトミ	主任	田中 圭子
主査	5名	看護師	21名
医療補助員	4名		

### 2 所属の特色

7 A病棟は、循環器内科・心臓血管外科 42 床、結核病棟 10 床の病棟である。1 年間で約 1,000 件の心臓カテーテル検査・治療が行われ、24 時間体制で緊急時の治療も行われている。そのため、スタッフは専門的知識に基づいた看護を実践するために、定期的な勉強会、研修に参加している。そこで得た知識・技術を活かし患者・家族に信頼される医療が提供できるよう日々努めている。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

「循環器・結核病棟の専門性を深め、患者・家族に信頼される医療を提供する」

- 1) 疾病・薬剤・検査についての勉強会の他、退院調整・防災など合計 8 回の勉強会を実施した。参加率は 72%であった
- 2) 心臓カテーテル検査説明 DVD の作成を終了し患者に使用した。患者には好評であったが穿刺部位が限定されていたため今後検討を行う
- 3) 褥瘡対策委員による「褥瘡被覆材」の勉強会を実施し知識の向上を図った。本年度の新規褥瘡発生は 5 件であり、昨年度の 13 件より減少した

### 4 業務実績

- ・他職種の協力も得て 8 回／年勉強会が実施された
- ・心臓カテーテル検査・治療の患者説明、またスタッフ指導用の DVD を作成した
- ・訪問看護・退院調整委員が中心となり「退院支援シート」を作成、他職種との退院調整カンファレンスで活用した
- ・新規に「心臓術前（木曜入院）クリニカルパス」を作成した

### 5 平成 28 年度の目標

「循環器・結核病棟の専門性を深め、患者・家族に信頼される医療を提供する」

- 1) 院内外の研修に、5 回／年以上（17 時以降も含む）参加し、また病棟勉強会参加率 2 回／年以上 100%とし知識・技術の向上を図る
- 2) 患者の言葉を傾聴し、丁寧な対応を心がける
- 3) 多職種と連携し、患者カンファレンスを充実させる（2 回／週）

（文責 勝山 弘子）

## ■ 7 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	高井 みさ子 (※)	副看護長	勝又 祐子
主任	戸塚 美晴	主任	佐野 みどり
主査	4 名	看護師	23 名
医療補助	5 名		

(※) は日本看護協会認定看護管理者

### 2 所属の特色

7 B 病棟は消化器内科病棟でベッド数は 53 床、主に肝臓や胆道系の疾患、胃・腸・膵臓などの消化器疾患の患者が入院する。病棟には検査室があり肝生検、ラジオ波 (RFA) やエタノール注入法 (PEIT) を消化器内科医師が実施し、病棟看護師が介助についている。また、入院患者の緊急内視鏡の介助も実施している。今年度は肝生検 26 件、RFA 及び PEIT は 35 件、緊急内視鏡 46 件を実施した。看護体制は固定チームナーシングで、患者の気持ちに寄り添い、きめ細かな対応で最善の看護を提供するために医師と共に医療・看護に努めている。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標「専門的な知識・技術を磨き、信頼される医療を提供する」

行動目標

- 1) 消化器内科の知識・技術の向上のために自己啓発に努める
- 2) 患者・家族の思いに寄り添った医療を実践する

評価

- 1) 消化器内科に関わる勉強会や内視鏡研修及び病棟検査室で行われる RFA の介助のシミュレーションを医師と共に実施し、知識・技術を深めることができた
- 2) 医師や多職種と共に毎週患者カンファレンスを行い、情報共有をしながら患者に寄り添った医療を提供した

### 4 業務実績

- 1) 病棟勉強会：緊急内視鏡研修を含め 14 回実施
- 2) 業務改善：清潔ケアの充実と緊急内視鏡教育プログラムの改訂を実施

### 5 平成 28 年度の目標

目標 安心して医療が受けられる病棟環境を整え、患者・家族の思いを尊重したチーム医療を提供する

- 行動目標
- 1) 消化器内科の知識・技術・設備を整え、安全な医療を実践する
  - 2) 患者・家族の希望に添い、信頼関係を築く
  - 3) 医療チームの一員として多職種と情報を共有し連携を図る

(文責 高井 みさ子)

## ■ 3 C 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	大石 悦子	副看護長	野澤 里美
主任	鈴木 裕子	主任	金森 清美
主査	5名	看護師	22名
医療補助員	5名		

### 2 所属の特色

3 C 病棟は、整形外科・形成外科・眼科・皮膚科の混合病棟である。高齢化に伴い、大腿骨頸部骨折や白内障の患者さんが多く入院している。ほぼ全員の患者にクリニカルパスを使用し、診察、看護及び自立への援助などを計画的に行っている。

移動に介助を必要としている患者が約90%を占めているため、転倒・転落などリスク対策に力を入れ、安全な入院生活が送れるように努めている。また、大腿骨地域連携パスを使用して地域と連携し、スムーズな転院を目指している。

### 3 平成 27 年度の目標及び評価

目標「専門的知識・技術を向上させ、温かみのある医療を提供する」

#### 1) 患者・家族が安全で納得のいく療養支援を行う

患者参加型カンファレンスやウォーキングカンファレンスを基準に沿って実施し、患者さんのリハビリ意欲の向上や退院支援につなげた。またわかりやすい説明や丁寧な対応・声かけを行い、患者さんの想いに沿ったケアに努めた。

#### 2) 知識・技術・接遇の自己啓発を行い、実践に繋げる

院内外の研修や学会に自主的に参加し自己学習に努めた。また、整形外科や皮膚科、形成外科など専門領域の病棟勉強会を月に1度実施し、知識の向上を図った。接遇については、事例検討会を定期的に企画し実施した。

### 4 業務実績

#### 1) 患者参加型カンファレンスを年間 178 件実施した

#### 2) 整形外科における大腿骨地域連携パスを利用して、年間 164 件転院した

#### 3) 日本看護学会、急性期看護で「整形外科病棟における点滴自己抜去に対する現状と看護師の想いと行動」のテーマで、研究発表を行った。

### 5 平成 28 年度の目標

「患者・家族に安心で安全な医療と専門性の高い医療の提供」

#### 1) 患者・家族を尊重した丁寧な言葉遣い、態度で対応する

#### 2) 知識・技術を高め、信頼される医療を提供する

(文責 野澤 里美)

## ■病院経営課

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
事務部長	杉沢 利次	課長	伊東 禎浩
経営企画担当調整主幹	北原 正基	経理情報担当統括主幹	金子 弘之
経営企画担当主幹	木内 啓人	主査	宇佐美 雄二
主査	内野 竜也	上席主事	小林 あゆ美
上席主事	木ノ内 宏治	主事	杉山 裕亮
医療人材室長(R)	佐野 光信	事務補助員(R)	齋藤 彩夏
事務補助員(R)	志田 奈穂子		

(R) は臨時職員

### 2 平成 27 年度の業務実績

#### <業務>

病院経営課は「病院経営の健全化を推進するため、経営分析及び経営改善を行う」、「病院の機能改善を推進するため、各種施策の企画立案と調整、病院職員の適正配置を行う」、「病院事業の予算を編成、執行を管理し、決算の調製を行い、資金計画を策定し管理する」及び「医療情報システムの管理運用を行い、病院の IT 化を推進する」の主要事業があり、以下の 7 事業を所管している。

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| (1) 中央病院経営健全化推進事業       | (2) 中央病院機能改善推進事業  |
| (3) 中央病院予算編成執行・会計決算調製事業 | (4) 中央病院会計出納管理事業  |
| (5) 中央病院情報システム管理事業      | (6) 中央病院 IT 化推進事業 |
| (7) 部内調整事業              |                   |

#### <実績>

経営企画担当では、経営改革推進委員会の事務局として、第二次中期経営改善計画の実効性を高めるため、平成 27 年度事業計画書を策定し、各項目に対する具体的な取組内容を院内周知するとともに進捗管理を行った。

また、地域がん診療病院の指定に向けて、関連する委員会や部署とのヒアリングを通じて、がん診療体制の更なる充実を図った。

経理情報担当では、平成 26 年度決算書及び平成 28 年度予算書を調製するとともに、平成 28 年 12 月に予定している電子カルテ更新に係る仕様の調整及び契約締結までを行った。

### 3 来年度の課題

経営企画担当では、第二次中期経営改善計画の事業計画の進行管理に取り組むとともに、新規事業に関する院内調整を図る。また、県が策定する地域医療構想と整合を図り、新公立病院改革プランを策定する。

経理情報担当では、病院情報システムを適切に管理・運用することに加えて、院内の情報の電子化、共有化など IT 化を推進していく。また、電子カルテシステムの更新を行う。

(文責 芹澤 広樹)

## ■病院総務課

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
課長	白川 安俊	総務担当統括主幹	玉舟 正弥
人事担当統括主幹	鈴木 裕子	施設物品担当統括主幹	中川 貴裕
総務担当主幹	秋山 英希	人事担当主幹	高橋 克典
施設物品担当主幹	塩澤 忠生	主査	齋藤 千賀子
主査	仲澤 実加	主査	宇佐美 友紀
上席主事	井出 大介	主事	加瀬 真己子
主事補	青木 孝介	業務員 (R)	秋山 功
業務員 (R)	加藤 猛	事務補助員 (R)	松井 みゆき
事務補助員 (R)	坪井 美千代		

(R) は臨時職員

### 2 平成 27 年度の業務実績

病院総務課の業務は、病院運営を円滑に進めるための管理事業を主な事業としている。総務担当、人事担当、施設物品担当の 3 担当を構成し、総務担当は病院全体の庶務・開設許可事項等の許認可申請、人事担当は人事・福利厚生関係、施設物品担当は施設整備や物品購入を主な業務としており、以下の 13 事業を所管している。

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| (1) 中央病院運営事業       | (2) 中央病院事務管理事業   |
| (3) 中央病院人材活用事業     | (4) 中央病院勤務条件整備事業 |
| (5) 中央病院給与支給事務事業   | (6) 中央病院職員福利厚生事業 |
| (7) 中央病院安全衛生管理事業   | (8) 中央病院職員研修事業   |
| (9) 中央病院市有財産管理事業   | (10) 中央病院環境整備事業  |
| (11) 中央病院院内保育所運営事業 | (12) 中央病院施設管理事業  |
| (13) 中央病院防災対策事業    |                  |

### 3 来年度の課題

引き続き、医師をはじめとした医療従事者の確保に取り組むとともに、高度で専門的な医療を提供するため、職員の人材育成に努めていく。また、看護職員の変則 2 交代制を導入し、負担軽減と処遇改善を図る。

施設・設備に関しては、耐用年数の延長を図るため、平成 27 年度に実施した老朽化現況調査業務を基に、ESCO (エネルギーサービスカンパニー) 事業によるボイラーやチラーなどの熱源装置の一括更新を行い、効率的な老朽化対策を実施する。

災害対策事業は、災害拠点病院としての基盤強化を目的に、富士市地域防災計画及び富士市立中央病院地震防災計画に基づき、訓練の実施、災害対策用設備及び資機材等の配備を計画的に進めていく。

(文責 白川 安俊)



## ■医事課

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
課長	福良 孝生	看護長兼地域連携室長	齋藤 幸子
統括主幹	森 育洋	副看護長	渡邊 裕子
地域連携室統括主幹	岩垣 哲也	主幹	寺田 和子
主幹 (MSW)	江村 宏子	主査	小林 真紀子
主査 (MSW)	佐藤 理絵	主査	前嶋 健二
上席主事 (診療情報管理士)	島田 英介	上席主事 (MSW)	遠藤 卓馬
主事 (診療情報管理士)	齋藤 智恵美	主事	杉山 彩
主事	名切 孝介	主事補 (診療情報管理士)	佐野 元美
事務補助員 (R)	及川 智子	事務補助員 (R)	柴崎 香苗
事務補助員 (R)	遠藤 京子	事務補助員 (R)	菅野 美華
通訳 (R)	鈴木 智美	渉外室長 (R)	加藤 裕司
医師事務作業補助者 (R)	生駒 久美子	医師事務作業補助者 (R)	佐野 由美子
医師事務作業補助者 (R)	清水 みどり	医師事務作業補助者 (R)	佐野 秀美
医師事務作業補助者 (R)	望月 美佐	医師事務作業補助者 (R)	太田 智子
医師事務作業補助者 (R)	芦澤 典子	医師事務作業補助者 (R)	原田 祐紀
医師事務作業補助者 (R)	望月 美咲	医師事務作業補助者 (R)	高室 まゆみ
医師事務作業補助者 (R)	勝又 好恵	医師事務作業補助者 (R)	古郡 直美
医師事務作業補助者 (R)	菊地 美穂	医師事務作業補助者 (R)	工藤 理子
診療録管理事業 (R)	藤原 真里子	診療録管理事業 (R)	大石 裕子
診療録管理事業 (R)	小林 朱美	診療録管理事業 (R)	阿倉 ゆかり
診療録管理事業 (R)	西川 麻衣	診療録管理事業 (R)	大川 由梨香

(MSW) は医療ソーシャルワーカー、(R) は臨時職員

### 2 平成 27 年度の業務実績

医事課は患者に良質な医療及びサービスを提供するための受付等の窓口事務と診療報酬の請求を、地域連携室は患者の紹介受診に係る連絡調整などの病診連携業務や医療に関する相談を主な業務としており、以下の 12 事業を所管している。

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| (1) 中央病院窓口事業         | (2) 中央病院外国人患者対応事業 |
| (3) 中央病院診療報酬請求事業     | (4) 中央病院診療録管理事業   |
| (5) 中央病院医事統計資料作成管理事業 | (6) 中央病院地域医療連携事業  |
| (7) 中央病院医療福祉相談事業     | (8) 中央病院健康診断受付事業  |
| (9) 中央病院脳ドック受付事業     | (10) 中央病院患者相談窓口事業 |
| (11) 中央病院看護相談事業      | (12) 中央病院医師事務補助事業 |

## 教育・研修

医事課では、医療ソーシャルワーカー、診療情報管理士が、専門職としての質の向上を目指し、院外研修へ積極的に参加している。

### 医療ソーシャルワーカー研修

開催日	研 修 名	開催地
4/11	静岡 MSW 研究会	沼津市
5/9-10	認定社会福祉士認定認証機構 更新スーパービジョン	東京都
5/23	静岡県医療ソーシャルワーカー協会 東部地区研究会	沼津市
6/6	静岡 MSW 研究会	富士市
6/27	静岡県医療ソーシャルワーカー協会 東部地区研究会	三島市
6/27	日本医療社会福祉協会 MSW を対象とした介護報酬改定研修会	東京都
7/25	日本医療社会福祉協会 ソーシャルワークスキルアップ研修	大阪市
7/26	静岡県医療ソーシャルワーカー協会 東部地区研究会	沼津市
8/1	東京大学 医療介護従事者のための死生学セミナー	東京都
8/29	静岡 MSW 研究会	沼津市
9/10	静岡 CM 協会・静岡市介護保険事業者協議会研修会/講師	静岡市
9/12-13	日本医療社会福祉学会	東京都
9/12	静岡県医療ソーシャルワーカー協会 初任者研修会/講師	静岡市
9/17	静岡県社会福祉士会 基礎研修Ⅱ/講師	静岡市
9/27	日本医療社会福祉協会 ソーシャルワークスキルアップ研修	神戸市
10/3	静岡県社会福祉士会 スーパービジョン基礎研修①講師	静岡市
10/31	静岡県社会福祉士会 スーパービジョン基礎研修②講師	静岡市
11/14	静岡 MSW 研究会	川崎市
11/28	静岡県社会福祉士会 スーパービジョン基礎研修③	静岡市
1/23	第3回静岡県実践研究学会	静岡市
2/6-7	認定社会福祉士認定認証機構 更新研修	東京都
2/3	高齢者・障害者虐待防止シンポジウム	富士市
2/27	医療講演会・相談会	富士市
3/5	静岡 MSW 研究会	富士市
3/7	静岡県医療ソーシャルワーカー協会 冬季研修会	静岡市

### 診療情報管理士研修

開催日	研 修 名	開催地
6/22-26	院内がん登録実務中級者研修	東京都
6/26	院内がん登録実務中級試験（1名合格）	東京都
7/17	Dinqul 研修会	東京都
9/4	院内がん登録実務者初級試験（2名合格）	東京都
9/5	DPC マネジメント研究会学術大会	東京都
9/17-18	診療情報管理学会学術大会	岡山県
9/26	静岡医療 IT 利活用懇話会	掛川市
10/10	診療情報管理士生涯学習研修会	東京都
11/7	院内がん登録実務者研修会	静岡市
12/5	DPC 研究班セミナー	東京都
1/16	DPC マネジメント研究会学術大会	東京都
3/5	院内がん登録実務者研修会	静岡市

### 3 来年度の課題

平成 28 年度の診療報酬改定に際し、院内各部門と連携をとりながら、新規・上位施設基準を取得し、収益の増を図る。

地域連携室においては、地域がん診療病院として、がん診療体制及びがん相談支援体制のさらなる充実を図る。また、地域医療支援病院の承認を目指し地域の基幹病院として地域の医療機関との連携を更に推進し、地域医療の一層の充実を図る。

（文責 森 育洋）

## ■医療安全対策室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名
医療安全対策室長兼副看護部長(医療安全担当) 兼専従リスクマネジャー (日本看護協会認定看護管理者)	田中 稔
医療補助員	佐野 順子

### 2 平成 27 年度の業務実績

#### 1) インシデント・アクシデントレポートの集計、分析

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
報告件数	2,834	3,310	2,882

#### 2) 医療安全相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
相談数	0	0	1	0	1	3	0	1	1	1	1	0

#### 3) 医療安全関連講義

- ・看護部依頼の講義 8 回
- ・看護師実務者研修講義 1 回 (市役所依頼)

#### 4) 医療安全情報

- ・院外からの医療安全情報を関係部署に配布し、情報の提供と周知を図った。
- ・院内医療安全情報を発行 (輸液ポンプの安全使用について) した。

#### 5) 巡回および再発防止策

- ・NICU のパイピング (酸素) 増設依頼 (増設済) した。
- ・病棟トイレのタイル修理、救急外来受付の角にクッション設置を依頼 (改善済) した。
- ・電子カルテシステムに「病理結果未読一覧」を新設した。また病理結果未読一覧をオーダー医師とその部長にも臨床検査科から通知することとした。

#### 6) 医療安全活動 (マニュアル改訂)

- ・酸素ボンベ保管場所の点検 (医療ガス安全管理委員会共同) をした。
- ・「富士市立中央病院 インフォームドコンセント (説明と同意) 規程」一部改訂 (医療安全管理委員会) を提案した。
- ・「医療費減免マニュアル (外来編)」一部改訂 (医療安全管理委員会) を提案した。
- ・リスクマネジメント部会で「5 R 君」のキャラクターを募集し、優秀作品 2 点をラミネート加工し各部署に配布した。

#### 7) 医療安全に関する意識調査アンケート実施

全職員を対象に配布し 812 名より回答があった。(前年度 770 名)

8) 医療安全対策室たより発行 (12回)

看護部の部署別報告件数を一覧表にし、コメントも付けて看護部リスクマネジメント担当委員会で配布した。

9) 各委員会、各部署との調査・相談

- ・内服薬の管理について (病棟委員会)
- ・絶飲食の表示版作成 (4 B病棟)
- ・検体ラベルの項目追加依頼 (検査科)
- ・薬袋のコメント欄に注意がいくよう表示の変更 (薬剤科)

3 来年度の課題

医療事故調査制度の開始に伴い、医療に関する患者・家族の疑問の増加が考えられることから、医療安全相談に応じ軽減に努めていく。

職員の医療安全に対する意識が高くレポートを報告する風土ができている。薬剤製剤は5 R関連の報告減少(未然に発見は除く)を目指し、転倒転落は医療者が関与しているの転倒重症事例ゼロを目指し活動する。

(文責 田中 稔)

## ■感染対策室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
室長	後藤 博一（泌尿器科）	専従	増田 満伯（感染対策専従看護師）
メンバー	18名（兼務）		

※所掌事務のほか、感染制御チーム（ICT）として機能する

### 2 平成 27 年度の業務実績

(1) ICT 定例会の開催 年 12 回（毎月 1 回、第 4 水曜日）

(2) 学会報告 第 31 回日本環境感染学会

①当院で経験した正常新生児における *Bacillus cereus* アウトブレイク（学会賞受賞）

②結腸手術における SSI サーベイランスと感染率低減に向けた取り組み

(3) ICT による各部署のラウンドを実施

ICT ラウンドは毎週水曜日に 30 項目に対して評価を行っている。適切な指導と職員一人ひとりが迅速な対応で改善策に取り組んだ結果、年間の全ラウンド平均点は 29.0 点と昨年度より 0.4 点上昇した。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
ICT ラウンド平均点	27.7	28.6	29.0

(4) ICT 主催による職員対象感染対策研修会の開催

①内 容：「NICU における MRSA アウトブレイク対策」

開 催 日：平成 27 年 6 月 30 日（火）

講 師：日馬 由貴（当院小児科医長・ICT メンバー）

参加人数：158 人

②内 容：「感染対策の重要ポイント～環境の感染制御～」

開 催 日：平成 27 年 11 月 10 日（火）

平成 27 年 12 月 1 日（火）：ビデオ上映

平成 27 年 12 月 3 日（木）：ビデオ上映

講 師：浜松医療センター副院長兼感染症内科長兼衛生管理室長

矢野 邦夫 氏

参加人数：327 人

(5) 感染対策地域連携カンファレンスの開催【全4回実施】

感染防止対策加算2の医療機関【芦川病院、川村病院、湖山リハビリテーション病院、富士脳障害研究所附属病院、富士整形外科病院、大富士病院】と連携し、感染防止技術の向上や最新知見の周知に貢献した。

開催日時

- ①平成27年 5月20日(水) 18時より 中央病院大会議室
- ②平成27年 8月26日(水) 18時より 中央病院大会議室
- ③平成27年 11月25日(水) 18時より 中央病院大会議室
- ④平成28年 2月24日(水) 18時より 中央病院大会議室

(6) 感染防止対策地域連携加算を取得し共立蒲原総合病院、富士宮市立病院との相互評価を実施

- ①平成27年 2月17日 富士市立中央病院の評価(共立蒲原総合病院が来院)
- ②平成28年 3月8日 富士宮市立病院の評価(富士市立中央病院が訪問)

(7) サーベイランスの実施

- ①検出菌サーベイランス【JANIS】
- ②SSIサーベイランス【JANIS】
- ③手指衛生指数サーベイランス

3 来年度の課題

平成28年度においてもICTによる各部署のラウンドを継続して行い、職場の環境改善と経路別予防策の遵守率向上を図り、医療関連感染の発生低減に努めていく。さらに、感染防止対策の遵守向上のため、職員の教育、マニュアルの評価修正、コンサルテーション、サーベイランスの強化を図っていく。

サーベイランスではICUで発生する3種類の病院感染症(人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連血流感染症、尿路感染症)と血流感染のサーベイランスを開始する。感染症の発生やその原因菌に関するデータを継続的に収集・分析し、発生状況等を明らかにし必要な対策を講じる。また、近隣施設からの相談等にきめ細かく応じ、地域医療の向上に貢献していく。

(文責 後藤 博一)